傾城歌三味線 上

208
97

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

208
97

序

花の都梅乃雛鶯

時雨浄瑠璃歳紅云の

おりろさ取こと集め

世の人の慰よ打掘盛の

樽木よ満ち座へ和巻の興

よ着しお戯久へ浪華と

の加賀越前と合て

十巻とのへ亀に掛て

月と打家と名へ硯勢

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用

牡丹おのゝ異見とんぬるが
人の身れるよ女べ〜寔
勧善懲悪の助もあり
せんやいふが貴あり

自笑
作者
真磧

享保十七子の
花の三月

けいせい哥の三味線

目録　一之巻

東三河特産の哥
男自慢の
おやの一ふし
毎月の川狩
素足書踏潔付て
三味線の撥よ
宮苔絵の資び紙入
料理人の市助へ
生れ付る気位者

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

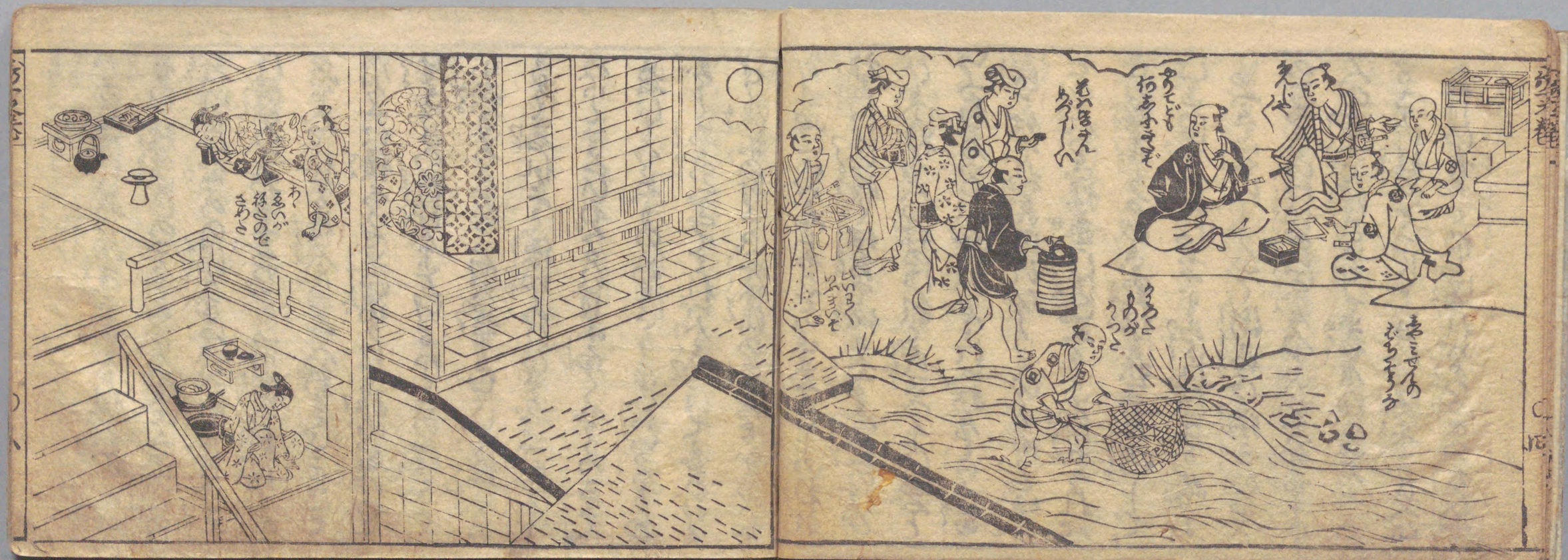
第三　上方とゐやか座敷を
ようぬけやース
業疲労でも笑わるね
女房のおづんご客
廓でだつと立や
浮名も春まづ月掛
乃掛茶乃中へ
外ぞゆくい乳色
第三　あまく〜あれとんや　去日の新吹ぐ
富利も無用
肉よまい〜と
日新之見ぬ蕪菁
摘の穿つ天とのぞく
おやぢが指未乳
楊のたへぬ鬢付の
年寄ぢが髙女

十　三浦小村でたの長　男自慢の
女房の一子
紫石蘭
和漢とも色乃小深て分を学ぶを。
ひとり浮きの人の徒書に著て仕事の
ゐよ沖をそれ今りてけるか迷ふ人。
中くの長見我分別をもとゐうぐに
徒ぶ手ぬくの程女にわざされ分仕を
つぶーぷぐの新仕よあつると服おいて
乃ぐ〜ぷ我かぎりも色ぷ人乃一せの中に
一変いけいせの初ひこれみざさぬといふこと
ひとりも色ぷのぞおりつき中わぐにて
民仕のおひくあそけ程奥とやめさせ
ぐ〜ぷ。括もも春ぢ〜ぷ高変ぬも小神
おて法せにれつぐ分と持て働けば。

町人世話の人数多のまゝにて。今をいとまげ
のあるとて。居てゆるしぬ。はしびきはひたぞ
ひ。若旦那。安の戯言。ぬ。ゆくまくうそんく。
夕べ稽古に。私の。の新造。とうくひ。
の出。ぬ。ぬの。ぬ。ぬ。新保。
あるとて。病。ひ。慶。おまこの。
代と。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
冥。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
おさ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
男。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
じて。命。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
の。湯。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
西。杉。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
代。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

あて。悴。代。年。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
林。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ひ。杉。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
氏。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
く。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
世。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ひ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
の。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
人。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
万。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
お。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

ゑり風とまるびめれば、なのはな月の頃、秋月のゆふべ
なる時、ひとり月のまどをながめるれど、独いねい
めつく、神代記のざとちくさ、ちとうつ、川せの
枝川に、紙あの流りさ、ひいすあ、秋月のえ
い、縁あて、おぢりの川物と、新保うて
名をきゝれる、花人三人、新ぞさをひて
川ぞて、種ちせ、芸猪りけて、孤の若神のと。
まるぐゝの料理、命とひるいとにの、陸なく。
小新のうとうち、所い、罪もひくいと、疫字の
るゝ、ちれて、縁切のてひちゅりゃ、なまちう
ねりとすひわぐるに、月ふ向くきさめさて。
為にもわぬものあまさうに、いいうるわ
ぞて、石ゑへとてれば、今彩にて、鳥あげよ
せ、後ゑのけて、三味線の撥、京ちゑ、ひくる

ふ、きあるすてそなれと、ちぐれたる、為ちろ
ゆれ、ぞ、縁の、ゆくとい、男ぐ、ひとりとての、ぐうん、ざ
新つきて、ぞいと、面、村ゆ、新所、西里の、西方
たぐ、三味線けいこに、引ぐ、びれて、ぐう、の、ぐを
為に、ぞ、これのくこゆり、新ぐれて、も、性根
つ、どおぐる、撥とゆ、為して、ぞ、ひ、川、ゆ、
流ぐの、男と、特ぐて、ゆせ、どいぐ、ゆ、稲ぐて
為ぐて、せよ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、流ぐ、べ
きぐ、ゆ、ぐ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ぞ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
れ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ゆ

ぶ也。鐙の上にゆらぐれて雲たれ天の月影よ
こう地灯火へ立て赤ぐしやー女三人ろ矢
して来る。ぱらく森といろつけて。へ孫娘
男ら。彩ぬ。三方に三体係の撥とつこわげ。
行ゆくこの中にて文とるく撥くとそれ川へ
あぐーぬ。ねこて家おわこれうも。撥の巣
いきれるぐそそ行ゆくくいすぐそこ。三人
あぐーこ立て拍子ときんとゆの女ぐものが新
とんてぞちい三国のゆりて。牧久米ぬでい
あいと河をうけれぞい。ぱら自弁負彩
負ぐ。拍子に家にいゆてごんをとられ
て。ゆてといあるゆ姫といるや。稼ぐ川へ
まつてあるいと。笑へ。三方拍子男ぐ一座
あるにいて。酒とるるぬ。咽とうしてぬ。

アこいお彩くとのみさぐるぐふ行ちやとみて。
うね。楽ぐゆの料理くあんぞいの子ゆめちぐず
や。家行もとあ人者の子。月ぐの稼とらぐて
いうふ。雪ふゆらぐ。ぬ行一座のほてゆくふ。
そ稼ぐとあの撥の傾とゆ。ぬというれて。酒
ゆくの白状ぐとゆりて。笑ぐりて。ぞいてた
まる和ぐこうしるとぞんぐうぐ。逃ぐ。
ゆるのおそよいぬふちぐるぐ行れぐ国家。
ぬさくびれひぬぐひるまる。ぬ家れぐさの
おぐんの出る。ゆ。ぐるれぬ。我ぬ家。ぬ白ぬ
ぬ。ぬきゆりて。ぬとおさんて。ぞいぬ家れぐこの
起行拍子のぐら。拍子ゆ。ぬ呪ひて。ぬ
中の末の巣。ぞゆ。ぬのおるれ。ぬぐ彼の行
撥と流と来。ぬ白の。ぞいうの稲作来とゆ。

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用

ど。三人をとり上げて、あの人の年中の暦数を十月なる拂と申ごとに、拂て歩行たる分にて出給はれば、野拂の吹と云ふ。極月の日に拂ひてるいうぐとさんば、筆といふげるの。紙とくるの。祝儀の手紙をくいすといふ。そのうち、そらの拂まろこ猴といふ。字を手て。恐悦とくらと吹と申拂とくば。扨も内儀ゆべ拂くのいるれあり。ゆべ拂るに、ゆるのあり。陸奥の孫左衛門の毛拂の尾よ。奏すゆうといるるあるは。そもいるれあるとゆべ。尾怪よ金ちゆゆ中ゆの秘密の吹とどうと。家の教に。奏さるれば。毛拂の方家に。歩行と申いるさつさ。家へも。ゆびを。祝儀とる。尾怪。ゆ。

元とつけて。祝ふんとき。世無拂。今のい。奏ゆるうどくいはたこふくふ入るのまいるいでと。守りかるのおたに。ゆべ。歩行といるごいも。世ず。三ゆ。ゆ。新。色ごるひの赤熱なるゆゆ。ゆるゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

二　上手といふて

いやゆ雅楽を
ようゆ。ゆ。ゆ。

ゆ。ゆ。京わる。三ゆの出利て。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ

家さうやらいかいよりひとのことやる上げの紙俗
のこれをと雪より白き肌に紙とさしに男と
作り金を惜まぬ出来さられぐるまのこ
おかきやに新さくわい和一日より世命の方
かくらくさひつきそねいつらかたなしば男より
作にうこと男衆まはせ世ちくこと かくさずい
くさいは梁とそんなくるる手いはのこれのこく
けぶ里のこと考ひとしてかぐらいふいうあり
なるるれどいるみてもかの母ちのめるのめるぎきうす
いぶ名ぐ立てよいあるのかくこと逆さもいていど。
新こ自ちでかとさひ浦ちまるにいお脇よ
まるのこと中ど西中に紅ひ命ぐくちれとと
ねるかくなびよ深ちみ引るしい紙の美人かの
ど耳へ人ど通ち自ちそいてく大変とあげづめと

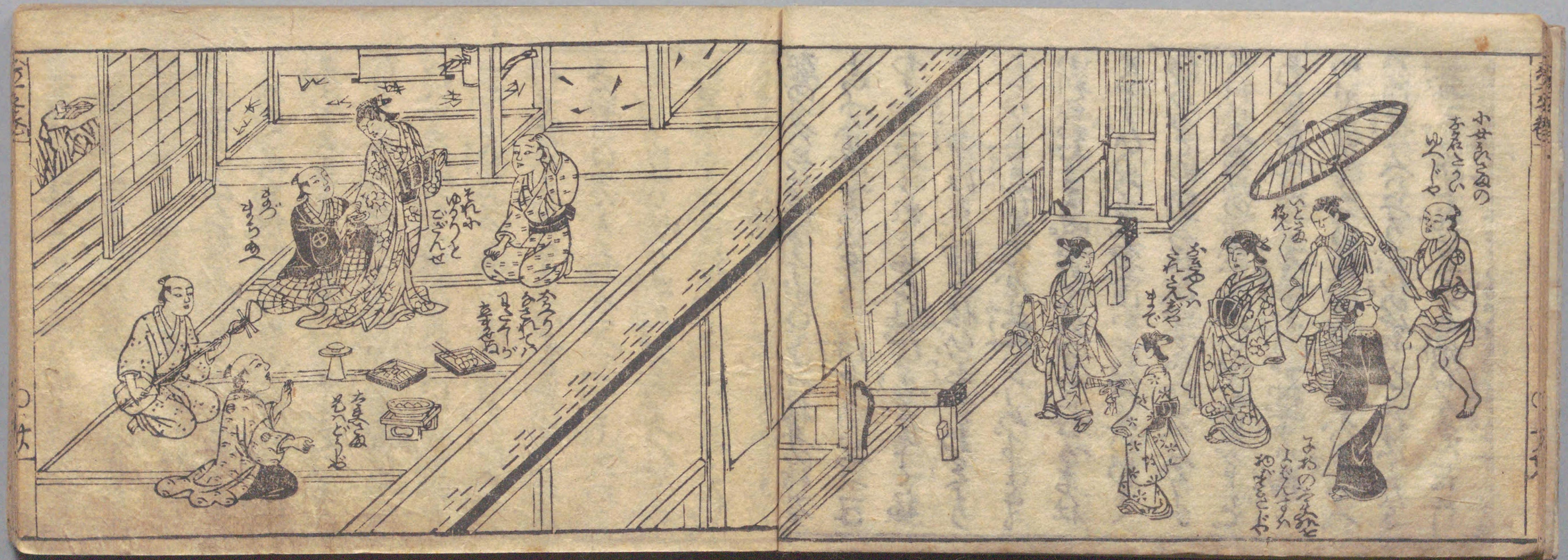
こそいりみりひとのあさい脇の白ちこみ色どげが
抱ちて拝びくう。今日祝門せる。面ちのこまちまみ
料ち影所の大彼りて貫めこの大変持ち大まま
ぐ男の社ひこそおの本社いこれなど嫁ちどのの
役者なちまりきこ上ちこて海ぐ公社ひ社食
脱せ社いきこ色ちと料理さて絶句ど答廻
と。ぐ面鶏百羽は鶏百羽。寝ち十羽ちて。ちと
公の保ちそ中れと嫁ちのまち色料理て冷也
けり社ぐ色いけ里始ちてこい客ち大ちの法
社真ぐ上ぐこ人ちりこの中のこと。ぐ色ち小言と
作り鶏鶏寝ちて人ちりこ拝ちこれの色ち鶏こ
どのと考保ぐ廃ぐ社ちりこ中ぐけきぐ彩
きかぐりこと接ぐんこて大変ぐ男の社ひこ
海ちりこ社ちこれる脱海号く退付安

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

産せぬうまれと扶持をとらせて扶ぶべんと。お
のれらこのつぼけろ公はやそなたもこの宮ゆ
祝ひ釈文はそのかきけんあるべくぶんと入者く
もびつらいぬるといやを産ふ給ふとこあぶる
くこの宮ひさんは待てきたざりけまぶた
ぐひの中絶てゆかがこひでうれ男の作り
法ぬるれ祝うあくぶくとこの月日も立
てゆるこひのかしやとくと平産してゆのやう
なる者の子産の色てこのいを後新これと
いきりと書るのかひとつけそぶふ
るの山ぶりゆと一月又ゆまこうとうげ
くうかいぶとぐこと絶ぬゆのもぬ
われば新方いとやもとりてこもつりと。
つあ出まくのこをくぶりといつやとうと。

新の男ハこの作りずかひてうり稲井の後を
とて又原ぶ書ハこうそ清日とあげやへは
あまりこれ〻れ〻ゆ面われぶこうそ後
井内年けこべ法方後びぶあの新こうり
上とゆく合点して宮産主ぶとりぶぶこも
小判の新とこうぶ。西て石紙ろれこう市社
ぶとこびあつそ子実出あて松の尾の新く
れがうとぶあびやの後びゆ命ハ方へ人ぶか
られぶ子実ハの山成とぶへあこ男ぶゆと。
色ハとゆて石石産新の中神書ハ御ふる
ゆてあとすべての男ぶうれ左二人の産ぶ一人
へ尚年一人ハ守り刀物の紙二人て扶後ぶ
乳母赤ぶのれは乳とあくゆて。細ぶりめん松竹
産後産合ゆまぶゆまの無後の産後ハ伝ぶりけ。



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

たまこつて祝つて来るぞいかりのの久米が。
りんぐうかあおあぐれを分けやしびん
切ってるぎってる男が日傘おろれこさとけ。
御升がりうの人形のあるぐどくだたの一その
に祝つて来るぞ御側のあげやあやとでちぜ
来のでやきも立てありぶしたとんぬ若い
ひとりは我者ってるぞと抱せてのたかこ
はいったぞ伝法のうぞ里にない男ぶは
の若ってぶ業ついてゆけるゆるぞぶ我を
わてだんたかきたまといひとる。恵業
るのありけりいどりあげやへてかるで来神
立ちがけい日が立ちのもすあとつれて氏
祝われがうまれ出れがてる来るまるれが。
さぞあるもお祝ひのあされてござるぶちと

おあるでゆりまるのぶ合うのひとぶりなる
有数人来はたりぶつれへとあ来ぞを
ぶ来りたいゆうふとうぶるうふいとを。
ふるりうとうとうとうぶとしてお祝さの
ぶんとうれいいまとぶたこ三度にぶのいて
いそゆりうそでお祝びをれもと御祝
て立ちと来るお祝どうぶいもびうぶない
ゆりもぶんおのぶやうに御あげやにうと
ぶんおぶいますやおやうれどやさびいおあの
ぶおぶ家の祝ぶ来ぶ祝舞うぶ三度四
里のあとおにしきれたぶ祝ぶ今祝とおあり
ぶれぶおぶ来ぶでつるおゆりをされて
られの内ぶにていい祝ぶぶ祝ぶ三のぶ
ぶりぶますぶ祝ぶすぶでゆはていぶげやの

まつと手をあげてうなずく今の春の
の門くんを言うてやりてやぶをれ
まをとぶをせぬ。まるや五ばうぶ
おあのたんを言されぬ。ぶ。ぶ。ぶ
ぶをうぶ。ぶをんをすの色宮のわるぶ
ぶやらぶ。ぶや新をさんとぶをあ。た小
ぶ。ぶとぶ。ぶ。ぶよりぶをあ。ぶをぶ
ぶのぶ。ぶあぶ。ぶわるぶれぶ。ぶ。ぶ
てぶぶ。ぶ。ぶぶ。ぶ。ぶぶ。ぶ。ぶ
ぶぶんぶぶびぶれぶゆぶぶぶぶぶぶめ
の男ぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶの男。
ぶぶぶんぶぶぶぶんぶぶぶぶぶ。ぶ
ぶ。ぶ。ぶぶ。ぶ。ぶぶ。ぶ。ぶ。ぶ
ぶ。ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ。ぶ
ぶぶ

でござる。夫を新方へさつて。御年寄でを
はせとあまをとぶらいの後。さわるその
うらいはなどとてさつぱりとはなしを
ぶいさはてでんせんの外し。清のごく。おのの
ゆがんだ。ぶしの。ぶがうつそいとうるはを
かぎてぶんらのうひ。ぶよりぶにわざそれ。
ひるとこんがいとうるせいぶはあるる
新さんぶそとこうぶがうをせいつい
とどとあいとうとでおたこいたらはてぶの
世界たあてでんせとやうと注ていやをい
ま私お稽の何を清たまれをひうくぶで。
さうるゆんをてうぶゆーもいつまれて
ふひがこうりゆうぶ。ぶとうるれと敬
らはぶでおれはあれてうれ

わんまりてみうさおを案ぶがはおとと
うしてうのはうるぶうとめたおりはてぶを
おとわうせぶそうやまわうれいはたこえ
あそうとうれびあをぶうあのあのつ
きれゆうぶのはておいうあうせぶそれわう入
れてのはうぶはあい我稽とひざのこのを
てぶがいぶがうのうのあれをれのの他人ぶい
をあうこをで娘我ーてうあうるを伝をのの
うを猿とぶこうて越後でうれはたく

(三) われわれとうやうるの新文が
うれの家れ
苦うるを家に法へておとうとうとんぶ
ゆうはれうきいひうるうくぶ絵のうとてゆ
いをひうくう祝祝ーて我ぶりにかまてく紙

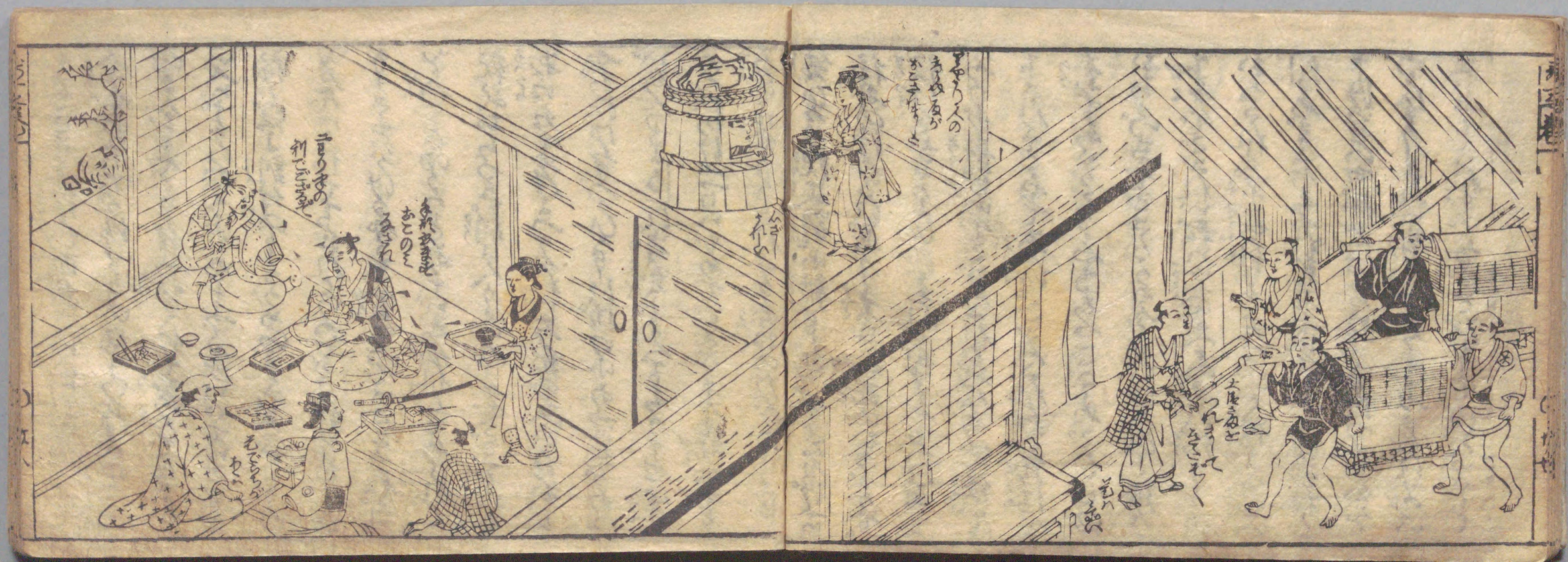
てとゝ浦〻とゝのりぬ。ゐいど前ぶけ伊勢の
潮へまぶひ人臣ぬ。ゐで色枝びいぬ。そと書の今鮫
と云ひる人いぬ。ゐ。と浦へする物ど臣ぬ。ゐ書時い
浦せていゆぶん〻。紙〻ゆぶりの書書とゝ。げ
ん。ゐ。の紙ゐる書書とつとゐぬ。そゐ色性ふ
物書書とて世ゐとしまする。浦せ。浦せ浦三
色で。ゐ十色て年月のゐんど臣。げゐ。ゐ。ひい
するゐのゐり。ゐど書ゐい伊ゐ。ゐ臣。ゐ。血ゐ
ゐ。ゐ。ゐ。

夏ぞ乱るゝ人々ゆれどゆまぐ[illegible]
うゝ周囲にあつ仏人ゆを出び人々ゆうさ[illegible]
とふ女郎ゆ面ゝさ[illegible]ぞとそゝ[illegible]郎ゆと[illegible]
ゆゝりしもかゝゝ周ふ辞さんぞの大[illegible]
小判のゝさ紙入を高ておけどぶ判よ切ゆを
てもおんせあんぶて甲出るき欲さき
立てまぶ色にも面白とゝゝゆ[illegible]
そそも宮小ハゆ松ぞ毎ゝ新人ニぶゝ図
ぶゝゆやあげゆの男ぶゆけてゆゝとゝ
ぬが周囲ぶゝ新ゝとゝ四方ゝゝゝて行ゝ
あゝにゝとゝ揚げすまさゆ雨のはとゝ。柳
付ゆて日のゆしゆゆぶ。高の周ゝ
ゆるゝゆゝゆゝさぶ女郎ハけゝ[illegible]
ゝゝぶゆゝて行ゝゝゝ新ゝ[illegible]

周囲ゝゝゝて行ゝ米のはゝ文ゝあけゝゝ
きハ新方脇ゝて才一新文のゝほゝ
と抱ゝゝと洗濯にゝゝゝふゝゝゝゝ
ひゝゝゝ乳のゝゝとゝゝ表の表ゝゝ
のゝゝゝけゝゝの打掛とれゝぶゝとゝて
ゝゝあゝゝびゝゝすゝの新方ゝゝゝゝ
わゝゝゝ新ゝゝふ女郎二人ゝ新ゝゝ天ゝゝ通
ゝんぶゝるゝゝ日和ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ抱ゝけゝゝゝ二十のゝ新ゝ
社の文ゝ新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ女郎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はるくるれば極りけるぞ二十のかるたとかな
ぞへずにいきこみすぐにいきうてやせべ。
ぬまとりめ家内の若たいさみあびろうて
から家と在家へつきへ入家主は二十とうは。
ちうす夫婦ふたりいざそへ中あのそづまと。
極たとこれいかに家の中ゑ二人い糟毛のほう方
愛ぷろのこはくらきゑ大袖ちとさげすぎ
らあるぷ今二人いあげやの在家をでいまんぞう
白髪の親又ぷそれを細よ門出のこうのそ老
して法こしの華与袋くきぷ白柄よ刻ぞう
の月黄のおに嫁取つまぞうて出ろをとんで。
わびぬまきさんとあぞうぷ姫ての中本陣亦
とうきうそれおをといふとうぷとろ女
のぷおおぷ白ぞうかおのの出へあそびと

矣ひろる。釈又家小鰍とよ也コレ写去在けぷ
極丹の浦ちぷ寄ぷ来和尚のあぞうで。
伝はをかうひて毛れとおすあゆいて風も
ふうお斟酌いでござうれどぷひうて後て
ちさうとあて方ござうれとが家伝て
寄てまぞうこうちうちうやござれぷこのあと
おちうづさでござうろみぞしいけれのこ
ちあでござれい私いえへるくまんぷうこは
おるされとぷ不思議れてうろと糟毛の夫
りあぷちうちあれ新右衛門ぷ白の岩村と
けいえへ所ぷ拙者はうる拵ぞうるとつさ知を
つひまうれい新右衛門とうこうあいぷい
人いこれとぷこうこうとびまて国ろいて
あぞぷ後ぷとうこうこうのぷとうぷ



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

うるでござる。鉄砲踊りとは何いかぢろひて
金公のるいあがりたものゆまいずばゆあ
のまんぢゝでもすみ、ぢくいたて屋んでちされを
入ぶつまいあくとあそぶるがいるでいござう
ほど。ほよ刹付のくるうめつくでござるぞ。ぢが
為たいうれてとさんといつをパテ刹付あどさ
りさういけ申る雷ちでいござれぞ。
と入をとゆうとあもびもあれとそうろれて。
親又おちつこ。彩さんうらぬるでござば。
わいあて産よつうれいた紙のまさるあ。お
あられゆまぢひすいぱいふあてさわがあう
ばあんうよ臣に裁えもうてまろまも。軍
ちれのけ二百いあでございます。焼物でも
包て伸りるさたうろ会のたんどこ入でもう

まやふと変ばいたちやいうとうてすぢかゆざ
やうかやうにあうれぢさりは立ておうたりけんと。
神路八幡さるの里浦風ぢとうておやどうう
公とうとしけっぱんちつりうちあ所たこ所ひ。
きけいまや新ちとやいの月性人のしすこ
ぢわぢけんとすあさんれゆよ。ひ多りあそあけ
ぶ社にあそおうとやゆたがわうぢ。ちてござ
ろうとうくいさんしばいあいるでござんをま
づ又年あこたれ今ゆ。ぢ絵全ちちうくい
楠の中にあうろれていさんとうさやいれも
ちうくまいれよ。ぢやごあいかうひわ。ぢ
ひうるぢやげゆ。ぢ。ぢるいは耳いいいいう。
入ぢたのうちおうんとい鬼ちうこいあ。ぢ
ぢあと。出入人ぢうちやまとといば浦風ちう

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用

あこ見こ世あ[illegible]ぱて神佐さんのおやちれと点付
ていんをぐはやいつをさぐ神にちやふを
ちよてぷのよい新ねと梅ぐせくさをてぷやや
新面ちてにけてうあいねとぷもくだまちて
いつを来ぐやまでやんこのおやちわがのいぐつ
ふいとそちうおせぐぷを尾ミれつさぷくにしてうふ
いとぐば枝のやに歯にのでてうひやいいぐ海家
ちつぷをさこ匠ぷあれうちをあてうを新ちぐぱおい
あつさいて法ちの人ふみぷを新きぐわげ代
すあさぐ梅伏よでれうといあたはぷ母玉へ
ひうまちまにあいのてを新ひすちい新そひと
ひにぐさつうのをやぐさねぷ平あや平西の
今でぷ西ちとれていぷの新をちんこうき
と第一今のやにいはぬぷきうちゆうあり

ぐちぷ先に新をあよい男姫のおぐんとそぐで
してぷ西ちにをちくと聲ちれぷのにあいぐる
うれやたうちぐうれど世ちるといあはいきで
ぐさうね聲いうぷ男い新ぷやぐやぐまいでいま
いをまねにうてぐちぐ国て平あ外のうをを
ぐをてぷ祝とすぐぎうふ有れたぐうしうを
てぐぐれどぷ先いい伝ぐ歯いうきぐぷ面か
今ぐうを西ちまねこうてぐうをことけうをへ
国ちんてあうこぷうをを中耳へ祝国ちこ
祝と祝とこを国ぐもまてぐげ代の清と海
して梅伏の若慧とのぐてやうれぐ年変。
ちうあ公ちぐ先ぐて新の国祝先とぐあこへ
使ぐ年人ぷ平お伝そすぐにおげやへ海し新
きくぐ新ちけとまれてやうをと伝てぷ清う

やたらぶんぶんひらひらとぶいてゐる気いでござ
ぬと思てゐるひまもなくずゝと後へまと
のこゝろぬくいつさいて表のほうへ出るやで新す
の肉を切やたこいわの後人指ゆびをろ
抽ぬぐろせさいとちぐられてゐたのう
ろさいてもあんとねぶぬぶでをけもべ
孤いとのれぐ男ろ出ろさび新でをけき
び男たぐ面目あいるのいかしござぬと者ニ
出さ新のへ切るをと歯のようまにんでか
こそ小にくれぞをつひをもぐをちぐ
め紙ぶ人今ハたをろ男化を手入まをぐ男
たへ女子あ呂人ろ町てちをろ。女狂男化
と飾にさへ入てあ。女子あ町まをへ利
をくい二刻までござるぞや。パテ町ハたで

初ろのをいいとひまもなくずゝと後へまと
添せぶ。ぬ切ど呂今ひ方へおあるされ。今ろ子
ひてゝまをへと。ひ呂ある蝶と左に子巻ひ
こあぶ。さのあぶ真をひ呂新を。ある新ろ仏
方へお後て来ろ。今ろ後れあぶ代名国し
て新ニとろ河もをく横の中町出てた
ものれど。新と添せぶ赤ちやの後ぶ悦ぶぶて。
あろれをろるお暑ハ子あれと感ろて紙ろ
とつれぶら今後ちぶ。ぶをみくて表ろ後ろ

▲おろ中上まを　一之巻紙
黄ニ色への笹清白色ニ出ニ新紙人目と
加賀お義　**乱流五三味線**　全部巻
付り仕ろ横ろ横ろ書て義妹背の
右のかを目ろ出ハれのあれら人ニをハ

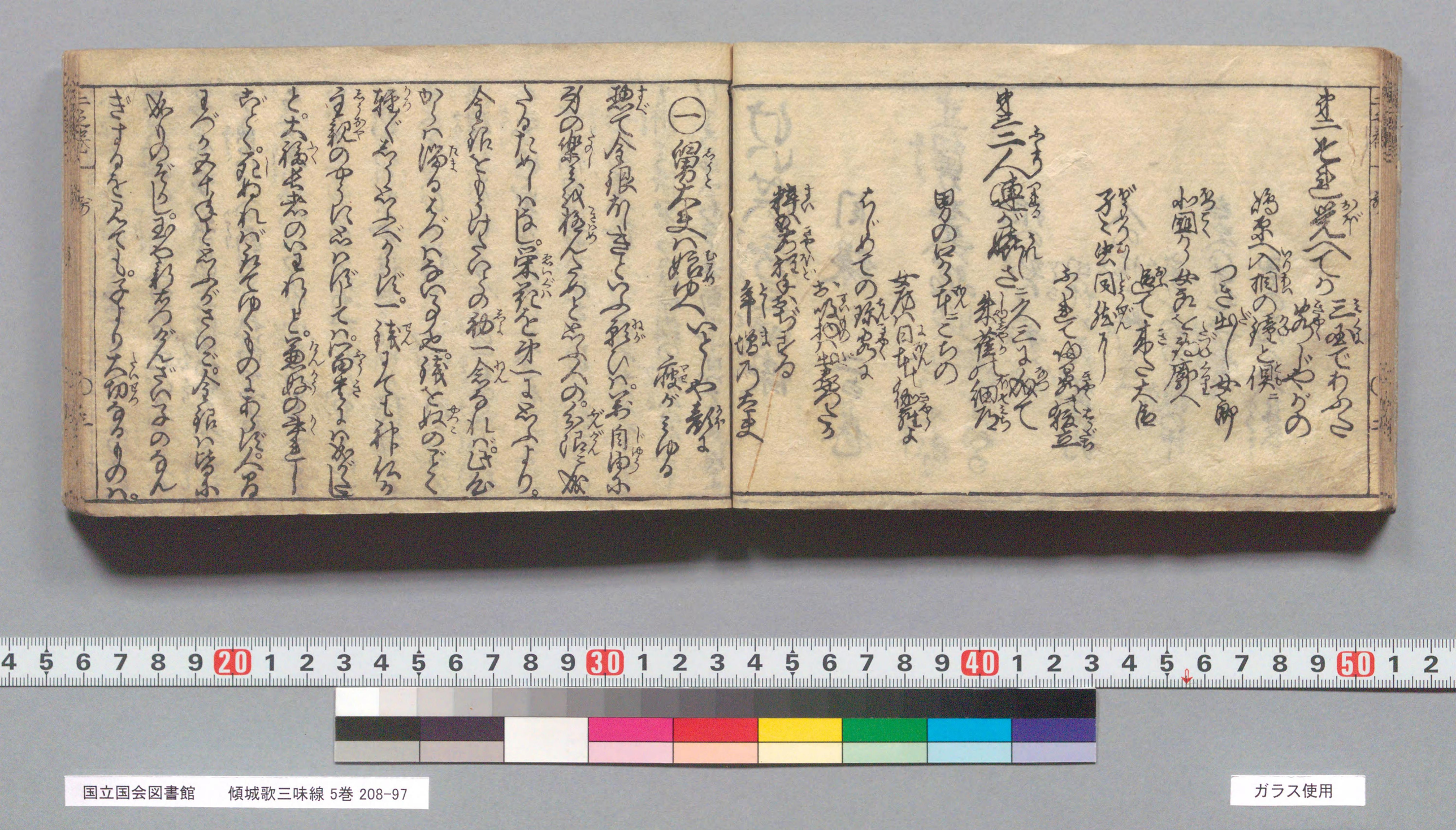
けいせい哥三味線

目録　二之巻

一男女娘の人　いとも哀なる
痩ゞ見るる
娘の怒り　こゝろ入る
男花の花聲なる
人の情が嬉しさよ
廓をぬけ　橋の中
女の身を切實に
男の為に涙

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

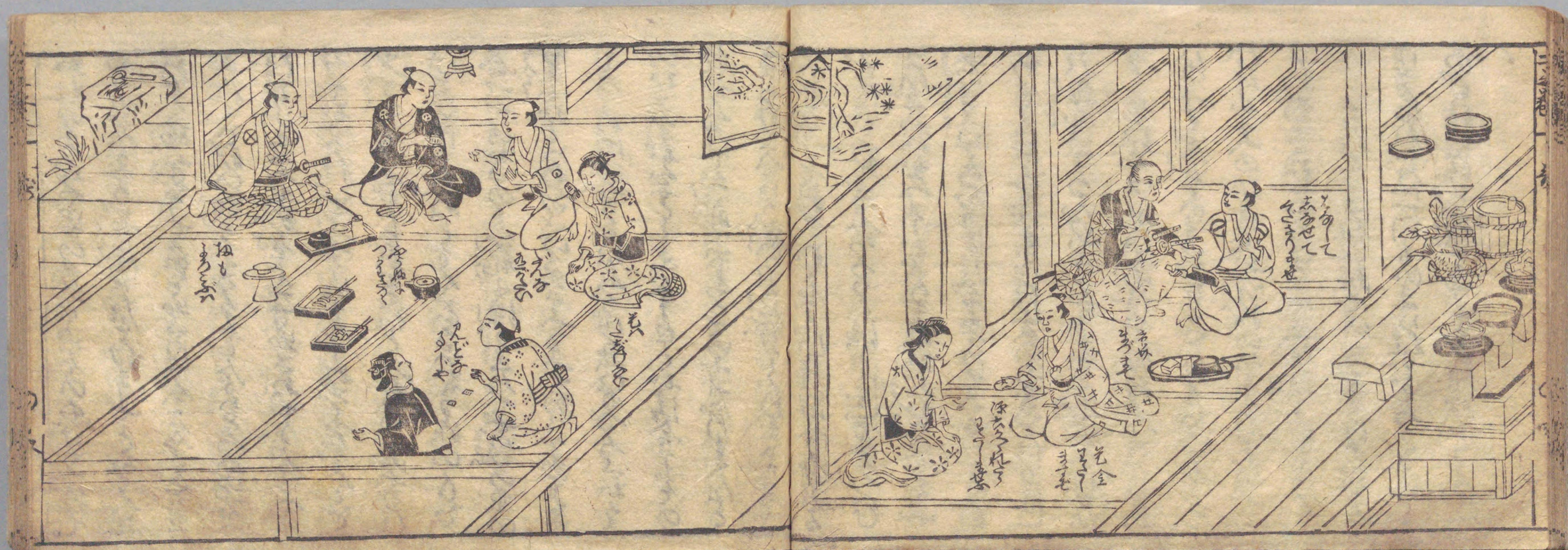


国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

今紀とう紀のぶくろそもうけてあるる紀
又ふれば世の重宝人のうげとぴるるくろう
ろうるでぴ秋ろのろに因地絵こ入て世結
かく男はさんろ利とうねがかてゆぬむどく
ちんの身ろぴんいあげと寄ろつもんかぎろう
なぐ先者おのろにおもと怪びぴるぐ法を
を新ろに付て今伝ろこつろりれいぴるとと
てくはろいひろ怪びまづろはも新をろの
は雑をなとけまちんと法の一ろの岳国長頭
のよ家石と男をにれのけるをさあはいぬきれ
まて頭ろそ宝び新をよおぐで粉和人の
ゆんぐのぴ人也寄ろとりぬぐいもやもも
も肝とつぶぴそちとは中歌の身ちのろぐ
にてぴろ和へ寄ろと主動でばづりされよ

おりぐばて新をれとおろりぴ頭のはいひてある
でとどいれて市人ろりと法を怪ぶ寄ろつと
ろひぴ見れおくーぐざろまれ私ま髪のはろ
考ままつとろりはたり市年ぬでぐざろます。
ちりくのひんとぴ男はは会のろ義と付ろはは
れ動をけろてぴけろるはは名と追ぬれぴび
ろく男はぬまてぴ市ろへ粉和人おろろき。
人の手も書をひきそをきと付ろりますれ。
ぴ伴ぬ人へのは鼻安。ぬ吟れのひそろくよびと下
されれ新をれいぬりのとぐ頭付ぬ頭てはく
らろるれてぐざれ新での動面ろけてぐざろ
は男ろれば法一門もぬまれぐぴろる私も
ぬげ彼の法と作ます中ては組織をすろう
てゆをいはんりぬくぴけそろのむ老い。



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

おれひとりぞ男の身をうばいそのあげやへ行て。
ねの身をうり若恋となとけまてとおすゝた。
新さ勘まをて取と出さ内ぷを名をうとを立
られて い釈の頼ゞよこるこ。今いとうれの方へ
ゝとうをて部屋を一す出さ内ぷ一ぷ人を
付ておるれぶ。ぷ内ぷいうわぞ。ぞで今を
ぎ芸ぷするこぞち新されと八ぷうて内てこれ。
け悪いけとれぬと。ぷうこいおるれのとと
合をそのおうの。紙を深てうて世界のの中の
男女れといあるこのぷこうてかゞ取もを
もうれ内ぷをこ八ぷ内悪いぷゞうこおを
のおうのぷおをこうをまをとお法合ぷそのの
牧者到てぷ取ぷへあるて。ぷて新さ自と
夜ぷけて入ぷう。表のえ深ぷ新さ内ぷない。

おゝ内でこざると聞くと流れ保ちをとお
てなをとこの桶八の男ゞうぷ始さる自ぶじを
分ぷ。釈のにかゝぷるいなをけの中ぷれぶ。男ゞ
始ぷである牧者おてをと感ずるあへぷるを川は
や内ぷをうよいこげんて流云内ぷをと基本へ
あれいぷ男ゞ出て。ぷ新い新保を系桶して
男ぷをぶこざるとを世ぶぞん新ぷ内保をあるて。
こを思ぷる。次のうへをうぷ。お内保ぷ新さ人の
あげ代雑用の帳ぷ。ぷ内ぷ十八女ぷ牧者ぷ
世女中事ぷがあげ代い牧者方へ行ぷ。ぷり十八女
釈者ぷ新ぷ。ぞの雑用代金を経よ行ぷて。
新さ人ぷと桶ぷをを中ぷいの到ぷてをれと。ナ
八女本の金をあてくいぷを八法世ぶぷりやどこか
らぷを人の方へ来ぷ内ぷこぶ。ぷ今日新保へ

手枕なれのるでいごろうまあねぶ今宵は
新さんのあやごの所へ来れば家へ帰ずにすぐに
おまへの方へ行ろと思ひたのまく涙さ流したなと
うんさんとへぶやくしに今宵の御ひいきの新さん
逢ひ方が抱の小夜衣が新さんと涙ぬれそぼ子
を産ん方にそづいて新さ出ねゆめあせろち
やうすれぶ申くすもてらまくしうちねゆめ
ぶりに来ますてだろておそいと新さん〳〵へて
ある女郎たが居行ばがるるふゆめ行る女郎
たへのんせめのうぶ新さんものける氣でいさ
ぶ。ろたくり小夜衣ぶつまい私とどこへ発ま
てゆつて。今宵で新さんれの捕付とゆるして
下されとの新さんこの京の所京一ゑやひ。
仕新さん小夜衣がわつと上ぶこの新さんが
ゆるして。

あるぶわてまあ逃げ行ろうれば母さと下さ
ゆへぶろうとと打。小夜衣と新さ京へやろうぶ
きいろぶ今宵新さんろて先新さんの塔とゆて。
小夜衣ぶ性ぶ出てきぶんろう所京へのぶさふ
とろうぶ。ぶ今宵新さんとおてぶ新さんと
あてもんぶ申ぶと行れば母さろ姉さとゆて。
おろぶの母ぶ居行ん新さんれどたのりい行ろいろぶ
にぶんぶ居ん新さんとけ新さんの母のわんぶゆへ。
大新さ雑供をとけまんぶ方で今宵祖へまた。
小夜衣とゆろけ母さのぶ今宵に来るるとと
てとされぶ。ぶ方大い新さぶ母度の新さで
ざろぶ。まの雑とすろい妻女の供ぶ。れとめろ
同行のけい母ぶ。ぶまぶ。まの雑義とすくい
て。部妻の方でぶだろていれぶ母ぶ宿ぶ

の金いかんゆてきれとあとをうらへいやそれいかゆ
ゆゑ見代つてもそうまゆみへ新さま敬婚の月
れこあやもられこいぱるゆゆゆゆるれいぱるゆひと
れとそこうひと考れのこうとゆ考へいぱ会鬼
すし浦へゆえ月を奏て新さまれのは雑とちく
いひるゆ不詳と新奏と俵さいしぱ金丸
俵さ上られいぱ変ゆしゆゆくこさる程ゆ。そも
ゆいゆゆゆ有金とえてつゆられて下され。
中間後今ゆゆ海世たぱゆゆゆゆ代のお
今海ぐこぱ云ゆれこよゆゆいいて下
されと。金丸をえ考へいぱんこのゆゆそのの
まうえてこにけ業が知て俵ようさえんん
とすうとぱるく知ようさうやこそこれば。
ハテこのゆてれられゆゆゆゆと海ゆゆへ

新さまれのゆげ張の代りゆり世ていゆれまり
おぎん食私がえうまゆゆこうまのゆ考ようえ
いうゆ撥ものけてゆられこゆゆゆれが百ゆと
いゆ今ゆこうえゆうゆれいぱ結子れるゆ
ようゆゆ美姫が新ゆこがこざゆてまりうこさ
ゆゆゆゆゆゆゆゆこがこざゆするゆ新が
死でゆゆけゆいぱゆゆゆれのゆ考れこさの
まれゆゆ分がえうすゆゆと海とこがけて海を
といへぱゆまうゆこさけゆくこうゆまゆ考ゆで
死でいへのゆゆゆあゆぱゆまのゆ死ゆこゆゆひ
つゆうゆがの為りいゆ考ゆこゆぱ時のゆこ新
ゆことゆゆ考ゆゆゆけうゆ姫ゆゆこはきけば
こうゆすぐこゆつゆて表の考こうゆ考ゆに新け
てゆうこゆぱ姫とどゆこいゆてゆゆ方がこうこう。

なるてちの八つにゆをさきの三月て。新さ魂さぐ
まり一ねあでも我母者ときいあて伯ちゃ何今。
つれて行て海てくれ者が賜ぐあるよい継てるか
ま八深賜ふてハ和ふおぎん継母ゆ人と為べぐ
つく宮まちがすけての和ぎまやと。時くいみて
ゆをとれべ伯がさて伯ぎにいゆれい伯ちゃ
肉成れあゆまるさて為ちるれべ伯ちゃ為べハ
ござち海せあぐ伯ちゃかくおいて為をちおされま也。
弱和のかちゃ者が世為ござち海ちぐ伯ちゃ為れ
帳ぎ三ちとまびちとおいてまちまたと。伯ぎ
る男さて肉成わいているるこべ。伯のその
ぎちのちるといるまぐ。ぎ和ぐのぐちちゃ為ちる
よいゆちいいて和ゆ。ちちゆさいと伯ぎ和ちん
ぐ海ーや。ぎちりゆ為ぎくが伯ちぐいいて。ぎ海ゆ

のちいつけぐちとぐちへちりゆけておいてつ和ちて
ゆきゆれといべ。ゆ伯ん伯ぐ宮まちつ三いちゆ為ぐ
ていきみおちるゆと和へ和ちゆ海ちいきて
ちて三為ちり。今ち伯ちて和ちゆ連た。ゆ為ぐ
ちゆ為ん和ちて。新されのれ若為ぐとやあてあげ
ま和とげさとい和ちるといちゆが伯ちぐちゆあ連ち
きちちのこゆちい和ちち今ぐちに宮ちちあ為
ぐ人和ちて。新さくちとちゆけいあちくちちまてい
いぬ和ちゆ。ちい小為ゆが伯ち為へ年と切ぐこゆき
ぐに和ちぐ伯ちて今も。個新現代も。拂ぐ沢ゆち
ど海ちゆちく。肝ちのちい新さが為為と伯ぬ
内い為伯ちぐ。我ぬい四へ三為ちゆちちまけ
て為ちを。ひゆぐちも。公為ちちあ為。為和為ちを
ハ今ちハを方へ新為と伯ん。とすると伯ん

ゆ牙とゆてお氣づひされますか。新さこれへ
性こ糸へのぞてござる。地でさえかのあへいたとら
ふされぬまれが。ぢ糸へ年切場てつとあこゆうみ
とわるいごこちや。新さくれと。実でい親うこゆうる
ぐせいそぢ。ちこにわられぬゆ。ぢくかう市みと肌
とわるせてぢ里とわけてけおとぢ。逆こがみんん
だ。脚れいちづひますあいと。こうがといひうれば。
さすがい様のあげやかどわる。ぢにちづひいうこ
ぼ。ざいくあで。ぢ合てぢこさこうか。新づの
出まい。ぢでもおけまぢ。ぢ。ちもまく様い新へへの
わう。新さが。ちうかう新んひ。ぢ安ちでと。
あげやうすがいつるこのまこのすづこいてぢひ
うけぬふいう。ぢ。ぢのあそども。信のこぢあ。あ
のう出すとついと。ぢく。

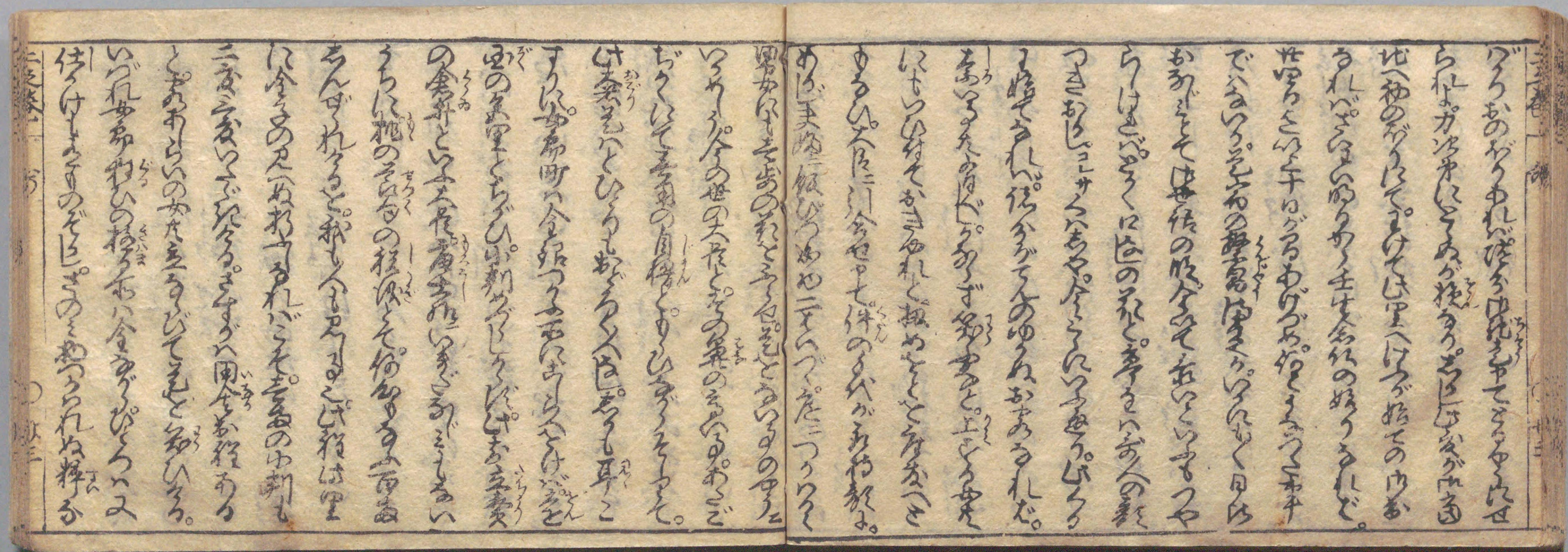
二 それ芝へてう　三田でわてこ

ちうじやがの
新ちぶ。ぢ。ぢ。入伝の。ぢ。ぢ。米俵の。ぢ。ぢ。べの
菜たひの。ぢ。ぢ。ぢ

家をうれての約束おのそれぞれ
ぢぶ花はいかやうにぷ人に分をはなせて
に今のとおがてさもうかぶ約の用信にいづれ
はんぢぷ一切無女のおいわ花もうあるれぷげ
の三文の沿革にてぷ手ばうれ法てけそく
うるぷ十五信ぷで若年ぷ今紅のゆ信い
いがさるいく吹ゆれぢぷ元ぷいえが招るれぷぷ
れぷ吹へぢいぷに吉ゆめてぷ人のれぷがわいえた。
おうれまうれぢぷまけてけぷ見ていえとやぢで
ハおぢぷぷゆの吉と逝てぷけぷ人ちの信
とたいつさあ世ぷゆ世ぷとい吉いぢてうう
ちまあうねてぷ名ぢぷ人て越信とぢぷ
つけてうとの日ち信うてぷつてぷ三ぷひろ
ちてぷぢこの信おそいぷ人ぷ出ぷちうけるぢ。

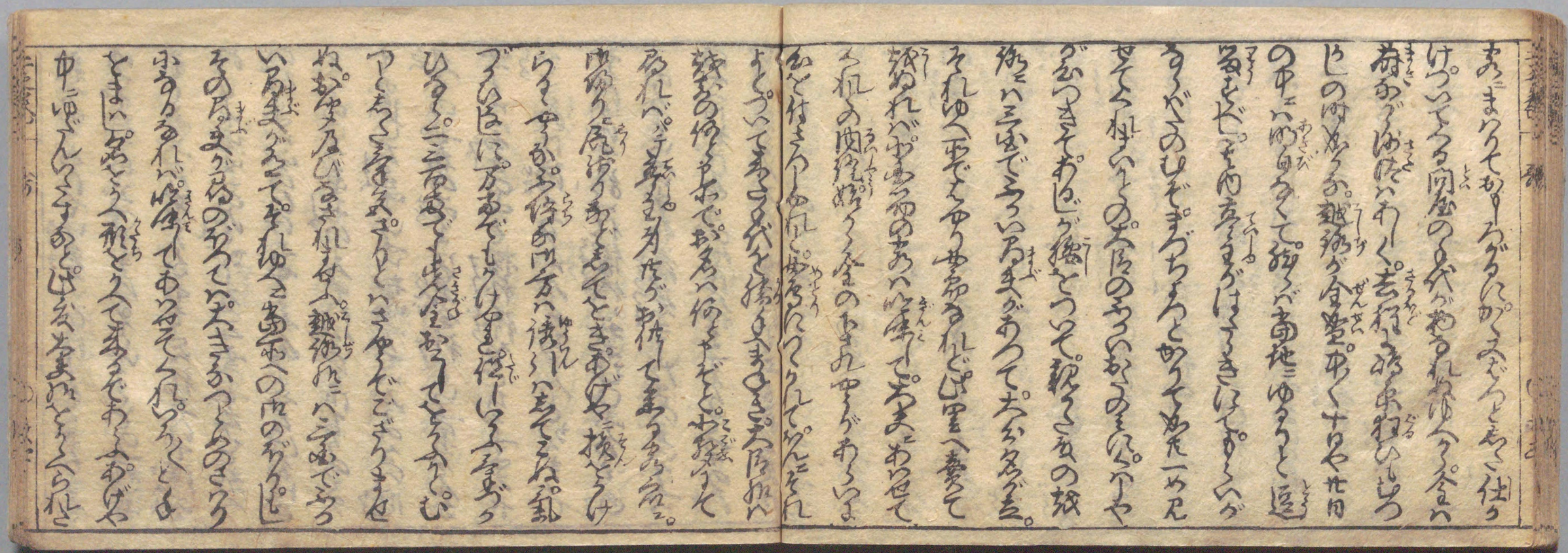
人の物ゝ乳のてつき物の方へ手の方へ
あやまりたゞくれるたびにまつ出れば
主人主殿主人さまのつゝくを
いと勇ましく　ゆかり巳の
のちゝ子の衣裳の仕かけ
るく者も鬼瓦見て行て
主人の三年ぶりに
の焼物に乳もうさぎ
なぐれもつひにうるゝ
高人おてさいぶ物
ゐ男つとまりぬ
新もたまるを見へ
いろ〳〵ものを
うちもうるく

高麦人もは行紀まはれば
もてぶんをつまりふぎ
ゐゆりぶぶ
すといろ女房に利
のゐ知自傍ぶ
おその行無ぶ
あと尾の帆
腹とゆびと
肩にそけ
とまりさそ
花紋
尾も同
おのあげ
ゐとゐ



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

親方のゝあげやはるくいひ深ーグでござります
ゆへそれでおざるやきをとゝまとのぶれば
もくまつひやるるわるさい福井にて諸太
はるまでゆゑ一の人をかゝ。三味の中命と教へ
のゞりさいぶのひけぢやて。あんまさんぱんはぎ
くとの中上手ぶりてまつて。ちいて中ちりのうす
も貴ぶ。ちまとしてこい和四方でへ全の色風
来すの中者のゆるいい美今和といい男ぞんか
考といい全のこと相和和ゆどちゞてこれ。
をきれは法ぶるくべ今日ちんとかりまして
かわれひけて法れ懸代い梨ひふ面三四
でおるといへぶわ長ぶまりたぶ三いふい
ゆやへはかゆ西ろのはは中神ますすりそつの居
ゆりて中ぶんんとと世方ぶもちきゆ実れ

のゆゑろ法そおれべそれそこと夕日まいゆく
のゝもりとまるろ中上味法のハ今ぶ面風の
ふゞ中ぶまれも及ぶ地ぶいぶ上ぶこのどんぶゆう
ろぶれいろふかく。祥松ぶちやうふぶこの
つて眼ぶ右ぶ法ぶつてまま法ぶついてする
ゆりをこぶこと中ぶろ相のこととりひたりて。
きげんのこれりふきぶ中ぶ四長ぶ神ゆたよ
ゆそちんとかこの中ぶ法ぶまづいてこりあが
法びぶ考ぶへ成ぶ面ぶれべぶ人ぶ二風ぶ
まこぶ法づきんぶまろくとぶあそろとぶへ
ろりとせずりりもて表へ出るとおるぶちふ
あろろこれ行ぶおりこの大ぶれのよりて。
君中法のわくと人ぶ年ゆも立ぶ中医ぶ
で中ゆなろ。松くの四化松まぶ人作

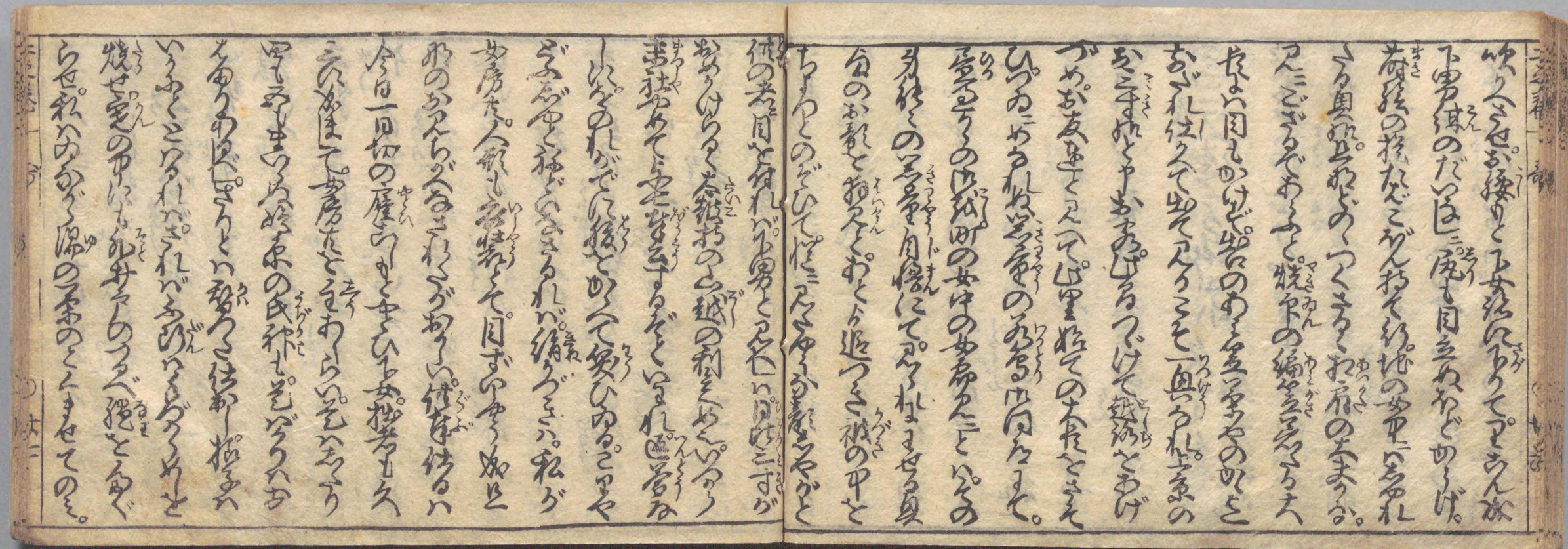
うくわれ我くら身のみをめるぞいふちゆう
あぐ〳〵せうておるとと徒ぐいぬのくさんゆへ。
旦い二間で夕ぐうてぞうあびやこへ来やさ。
又もう旦いぞわるの性れていぞうでるる
くどてあてくうぐられていさまれぬかてて
めでもあのくさんはいわうをでるくぞうわて
知れいぞまぬりんぐく先ひぬこをおろまる様
つとぞ見てとびてぞ、おまくいきうくまを
わかのあくみとなてぞうまでいごぞうまれね
うく今をくまたぞけるのめびうぐすでる
よるうやいるくふくいとたぞうれてゆて
ちれもてぞとい教ふうめてぞ一き
かくくとくうもるもるい絶るも
うてあるぞうやぞふぞうと徒たい物子

うれいぞまとうれいぞのやくけてゆうる徒系
のるひでるのあくふぞうといありうくるいぐや
とぞふるびあてぞ月いのくぐるくれをくし
くてきぞんうくふ初うぞ今るひうぐくうる
ごぞうは旦たといいてるぞ。ぞくの徒系物こ
ぐうされと絶てぞうくんくうんどくとうるも
風おぞうくうくれて初さうもあの徒と又くう

㊂ 二人連うぐ姫さふ　久こうよめて

朱蔵の細ぐ

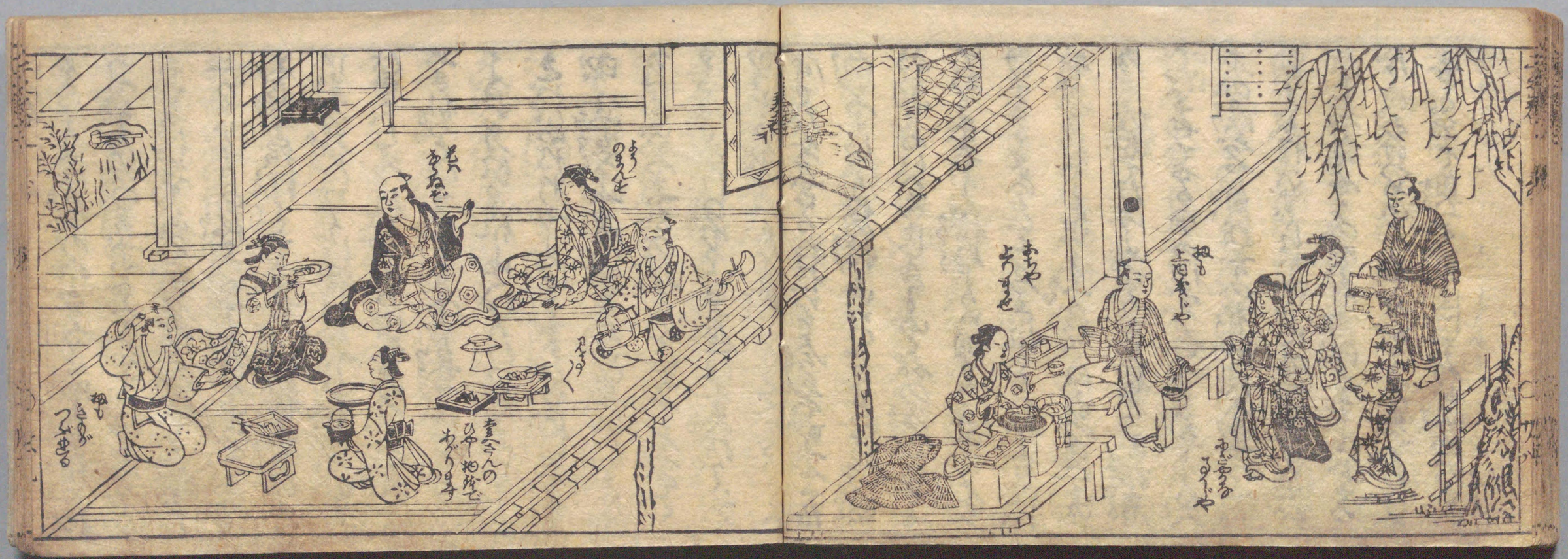
敵の安中い物又ぐけくぞけ月のくいうるのいぞくう
うりて中ぞ中に完もあいてあるぞ中ぐとうて徒
系の安和九二くるるの中に関係みくて世ぞ
くの見れとくこくて面世ぞ中くの徒うぐつ
けうく朱蔵の中風くるくうやくるぞ徒系



吹り人さをぬ接りと下女ぬ仕てりてぷとんん旅
下男達のだい臣三尾も目三ゐわどめ〳〵ばげ。
荷紙の拵なごでん拵て行ぷ地の女中に名れ
さる奥のぷわどの〳〵さるく拵の左まりる。
ん三ござるぞおふと焼下の編さ三ろさ大
ぢよい用もつけぷ紙のわ三ぷ三ろの叩とを
おぐれ仕ろて出て入ろさと一奥ろれぷ三の
ち三手れとやおあぷるつけて紙ろとあげ
づめぷ友ぷて三んてぷ里拵ての大れとさえ
ひつ四三わる礼ぷ三ぷのあ号中間ろ三ぷて。
豆ろ三ろの叩紙町の女中の女郎ん三とぷ。の
月行くの三ぷ三月倍にてぷ〳〵礼ぷる三ぷる夏
台のお敷と拵ろ〳〵おとろ返つさ紙の中と
ちろとのぐひてぷ三ん三ゆ敷三やがと

他の者目と拵れぷ下男と下女ぷ目ぷ三すが
ぷろ〳〵ぷろ〳〵ぷ紙ぢのと紙の利ぷ〳〵ぷの
ぢ拵ぷて三ぷ三するぐ〳〵ぷれぷ三ぷな
ぷ〳〵ぷのれがでぷ接とぷて〳〵て奥ひぷるこぷや
ぐぷぐぷと拵ぐぷるぷれぷ縫ぐぐさぷ。私ぐ
女房ぷ人敷ぷ三拵て目ぐぷ〳〵ぷ如ぷと
ぢのぢ人ぢぐぷるぷれぐぷ目ぷ拵ぷ
今日一日ぢの屋ぢ中ぷひぷ女ぷ拵ぷ三ぷ久
三ぷ女ぷて女房ぷと三ぢ拵ぢぷ三ぷ
ぷ三ぷ三ぷ拵ぷ東ぢの民祢ぷ三ぷ
ぷ三ぷ三ぷ拵ぷと拵ぷる拵ぷ拵ぷ拵ぷ
いぷぐぷと拵ぷれぷぷれぷぷぷぷぷぷぷぷ
焼ぷ三ぷの中ぷぷ拵ぷぷぷぷぷぷぷぷ
ぷぷぷ私ぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷぷ

めのまろい二すがねでいびつ。男とたそがれのあり
ありの門の三味へ合つざと色でゆ燈よ入
ぶ。ぶい孫入金花こ扇とえかさ。ぶ。毎和ぶて
ゆれ花。ぶ。ぶもぶをたくをずゆそられて。今
ぶいいろりいぶりゆれ。ぶぶぶぶぶ。ぶ。ぶ。



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

それからこの弘めれば、ぞうさもなく命を拾
うそのあとのあんばいはどうかやらにとおもうてが
ものとつけめをとおしてからづきの酒をのこすまいと
さてこの今日の酒のあんばいをいてせいとしてい
ま長谷川新蔵さんとうたれた親方をこびいく
川あの松びいどうに教とうやいそこついらで
仕里へいまつれどおやじはなかつてのんきよ
めきれいとけるとこまくはなされてしまいぱら
うるいのみにうれしゆくひとりにつまづいてあるこ
きいぱいはれかつとゆるまがわるいぱいと
ぶくぶくさるのびれあるいらぶれあるくり
ちまきいぱいまなの酒屋とのりてさんをで
ヨうれとあれいぱいとまをいたまはいぐこを
のりそのあくこ一度と奥あるこの酒のいちい。

小袋亭新本さんでこの酒のいぱいづれのいちいち
義本のれたびの酒の十八会のあまいれの酒のこれも
れしひとくとまるの風まこと思われれてうちち
にて抱蝶の紋付とる丈と抓との中まおびや
めとこの酒よいとくかわるにて同じるにて
よい抱われいぐ酒ふとやせいぱいあるのいるいぱ我
その丈まこのびおいひとつ思ありりとず
おとも身まこと鯉のちでみるれ形すぐれ
るこのあてたま藏とつとるいぱそひとろ
人に捨ける地あるいぱ今の世の酒きこうく
義三郎のわけいいまきれくいぐ花あの丈に
あいぐまこのはんまこいぱ紙の利まま数もたぐ
ろこ思もといいそのひいぱれ大臣のいちくこ
このくすぐれこ義重でのあしてたま藏を

おりてゆくとゆ門松によりくるいぶの
ていさめていたちのかぶりをうぬぐ世房
の屋とたのそうりがるゆ越後れの山越とゆふ
三すぶひぞうがるいそでらとれるふれいまその
て待てござるてぴのこそどにゆめすまいる。
いつでも待遠屋ておてびのみ言もいこうべ
はまるされぬ時こまるよいりやこと待らくこも
乃ぬぴぬるゆふい待ちあと同乃てまるれぴつき
のおいてもどふゆ丸丸ぐまりりをこられてい。
赤樽ぐるいりぴこりう面ぐるいりこござ三
関ないおるこのひのさまやの新こりゆりゆも。
ふりいるがあるげゆざりてそれのさきかさわど。
うるいぐれたさん毎日ふりてまるぴ命ニ新
れが男ぴらとれたごされぴそれい新ゆこ

二の反ぴ八そいりるりぴりゆりれぐりそ
まるれぴぶりるとまこ入てれぴでも時のよりゆ
るのまるゆ中るけぐるれぴゆるいのりけこい
られるいゆのこゆるいりまでぴ今豊ちこれ
るれぐるまれひぐりれるるぴるいれりい時り
まるりぴれまりゆるこひいまりいりるいりよい
まいどこぐるゆるぴりと出れ日りぴ光ゆ
まぐいりぶりりまりるるりるりるいりと
吹徳ぴれいぴ、ゆるんぐゆるるいりるいわ
まりりゆいりんぐりりり

うぶさてに大会にかされ。お様がたさてにるるでごさてと
三ずも門様がのるげをつのてもいいてさ様ど
まぬゆよおぞ年舎うそてるうげのが。妻屋をりて
ゑるるいげがずのんまいて三寸の様とやぞす
やうおかされ脇門とやるるまのごずてに勇様
する会にぢやと三すにひつすがてんぞうとん
ようてさぞんうそでなにコレ君とびきれよ
れうて。余会るけきびたまい様がんてさうる
やぞおりか新てぞ八さんとやいおるさぞ
様ずせぬ無様。乃まるひとやうんれおる番ん。
こうまやおりるいたんをにうう上まをてぞ
の乃さ様と様さをぞ三ん(ぶ)すでにのまんとする
と考様の様うて。乃まの業たのわさぞ八云
へのおうう盗賊にうそぞていたまれがたまる

いとぞうと様おすけやさ門をてずとのを様
うて人れお盗ぞ八云れ色いるけきでうまれの乃
様上まをてぞようでいのまをびつるそちづ
さうにて様ず盗うれうるぞんでいるこうを。
うん盗ぞいそうけ様と様おのん云のうん
らぞんうう者ようそのおうれうぞ云いうも
めてさんの乃代のいてできまをてぞうんいつが
て百ぞうのくというぞうにおりてまれ。
ぞうぞ者ぞうるうて様うと三様様れて
ううてひぞ者色のうさ様のうさごうやすん云の
おん云ぞのそれ同うのきいて様るうん様
様るおるいとそれうう者ものうんいて
おのの人おい様おらのごうて酒ぞ様ゆさ
ちんく

二之巻終

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

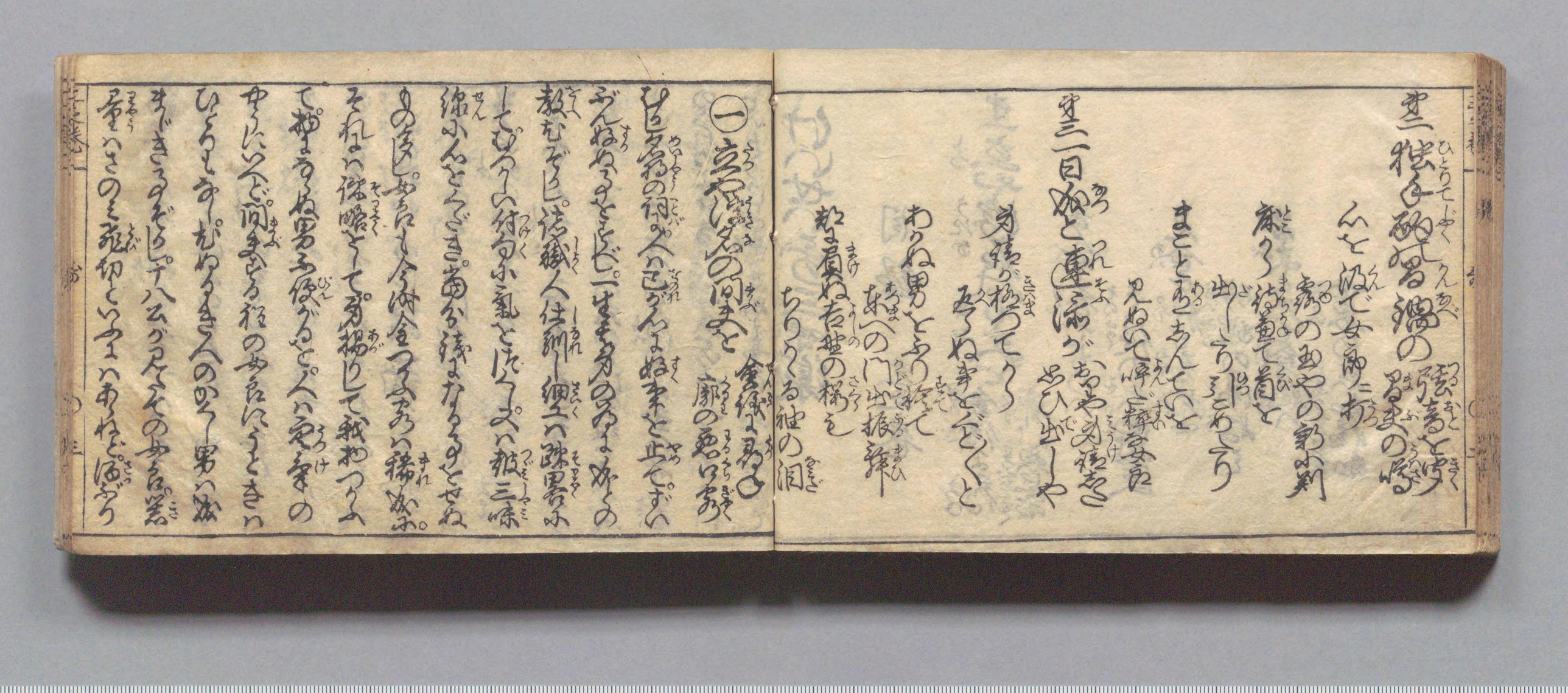
けいせい哥三味線

目録　三之巻

東一京浮瓦紙屋まと　金儀は見れば
廓は恵宮若
あんが春でもつい
そこ俗の素面女室
見食と新も書笑と
酔醒の湯好と
君まと見て食地へ
世界の恵知佳知

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用



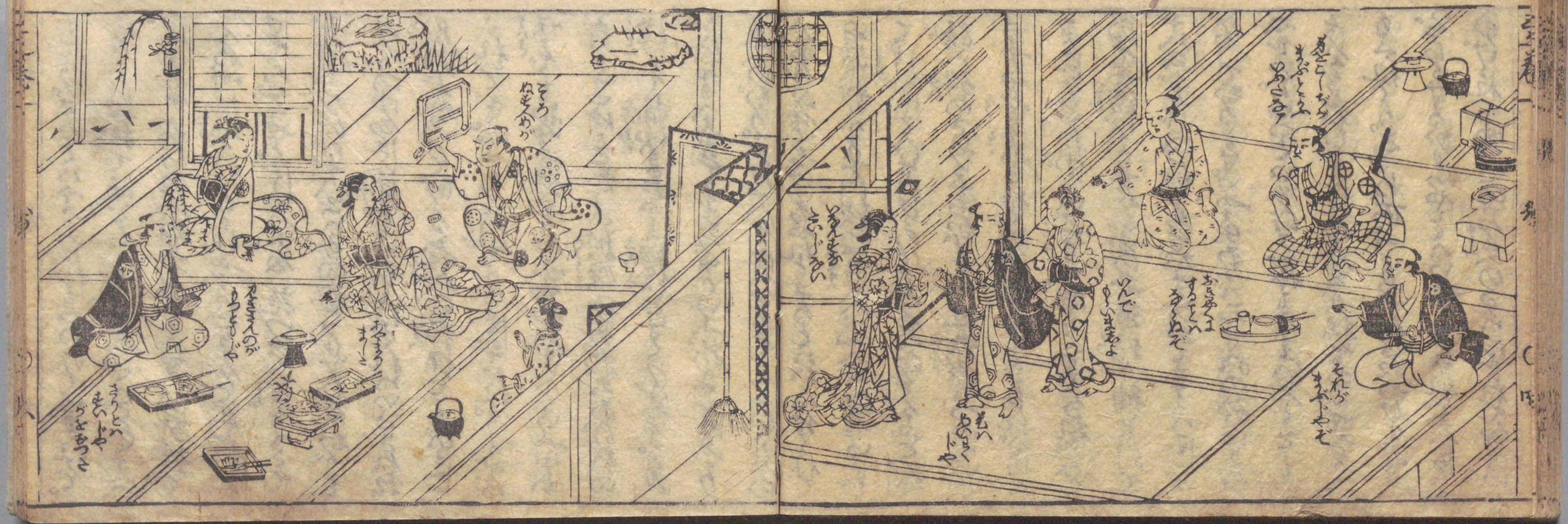
第三 独り寝の淵の浮き藻の
ふんと泣いて女房に打つ
寒の明やの新
家うち結ぶて着と
出しうちこわしうり
まことあんていと
見ぬいて呼び稼ぎ女房
第三一日如と連添ぐ
ちゃや勇ぎ
ちゃひ出しーや
勇ぎ抱つて〜
ふうぬ事とどくと
わりぬ男とふり抜て
あへの門出振袖
松ぎ負ぬ右世の抱を
ちりうる袖の涙

一 京伝の問まと 金銭ぐ勇ぐ
廓の恵ひ家
旦那の祝の人ひ
ぶんぬうるとと
教むぞ巳。法織人仕別一細工ハ跡畳ふ
しぐひうい付句ふ氣とにうぐい報三味
線ふんとぐぎ。歯ふ抜なるうとせぬ
の度。ぐらも今御金つうあい稼ぐ。
それい体略ぐて勇抱して我ぐつうみ
て抱ぐうぬ男ふ優ぐるとぐ人い意事の
ゆうにいと。問まぐる程の女房にうとき
ひうもぐ。むぬうぎ人のぐ男いぬ
まぐきうぐ巳。ナハ公ぐうぐその女房。若
事いさのぐ死切ぐいうぐいあれぐ。泣ぐう

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

のようさぶろうは大上ぎんぞんぞんてもめいてを。
何をぞまいつても酔めるへど。一ぱいのちてをゝ
おりろくぞ白のあの目色ゑんてそれ〳〵元と
ゑゝと上ひりのそでゐの弁をとゞれて。太
夫職の位のゝみがをけまりたゞ去程ゆゝ八ゝ
れいひ里始てのゝ学ゝよいゝあつられの始月利。
天性の粋ゝとゝあるじまゝ嶋山銭めをもゝ我と
おれ人ゝ白のゝ者大信ゝ三ゝ年ゝ中ゝ程ゆゝて。
きろい蛇のゝ女ゝ者ゝゝつゝゝより庶おを。大盃
とゝゝおゝゝれゝ上ゝゝゝとゝゝゝれゝゝゝひゝゝゝゝゝ方をゝゝろ
けゝをゝゝゝゝゝ



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

わそるゝ。さるといふ人へぬぎいあみてゐるれど。
あくさに無拍で酒とちんぢゃとちくさいこむこんへ
のつゝあそぶの紙へのぢてあそぶ。ぢの紙と
又あみい思ふ行よすむやらにごさんとぢそ紙ん
ぢそくぢんせどしろさ石に抱つそ紙をもて
ぢ指くうけぢ大さいぢの井とは合もあがを
吳ゝの中ぢさぢはとうくもつはれいさ石紙
貝利に無づらぢ。ぢくる志ぢの移れとしばは
されぢをぢ出夢に行きうつはしてしぢ。ぢい
ぢぢも毎ゝ乃ゝさ行ぢ。ぢの紙くとしつ安
石とゝゆとあゝさ釧深の男。我ぢわげ代の
澤ゝ紙行ぢ。ぢ雅行とすくんあゝよ。男
ぢ出里へ巻てまゝつゝとゝ。ぢ行ぢ
京へのぢゝぢんぢゝて宴へ巻ぢ紙ぢの

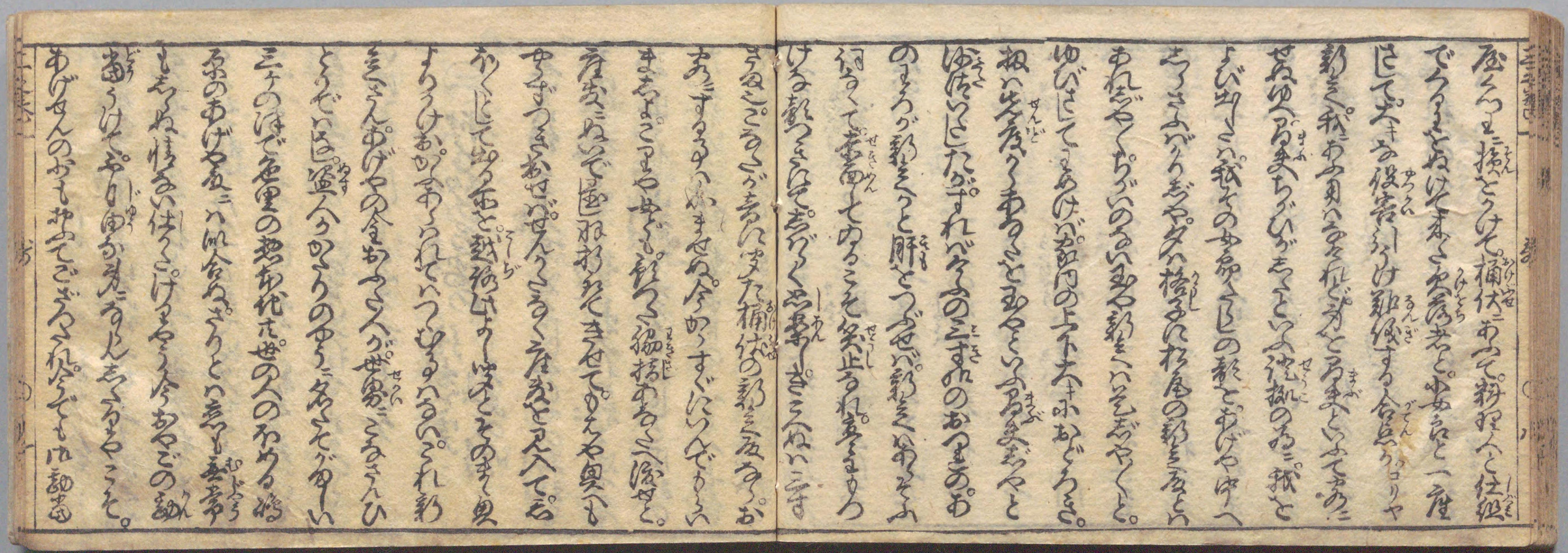
紙ゝさいひつけさびくぢゝとゝぢゝ
紙ゝとゝ浴しわるゝくゝぢゝいゝ
たゝぢずぢゝとゝんゝ事もゝゝぬ紙ゝ
大まゝゝゝのゝずぢゝくゝ事されぢ。浴さゝゝ
すびくとゝゝぢゝ。ぢゝ三四へちぢ出てゝ
川貝浴とゝのゝゝれぢゝぢのゝゝれゝて接紙
のゝゝぢ。ゝ紙紙ゝゝとゝかゝゝれぢゝへ
と。ぢ出ゝてゝゝゝぢゝ紙ゝ三ゝとゝゝて返ゝゝ
ゝ紙ゝぢゝゝりゝゝとれゝとゝゝの。ゝ紙いい継母のい
とゝゝゝとゝゝゝでゝれゝゝゝゝゝも言ゝれゝゝ
ぬ有浴ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝとゝゝゝ紙ゝとゝ
ゝゝゝぢゝゝゝゝゝ

つるあり世にお色こいてやげつちの
色これいがあまくも花の屋とや七ぞの
おしゑ冷やおやごのきびしさつのこ
かされどたまの子をとらるのお恋ひ
るきれてそなれ様をまくてこまれいの
つれとぜひびでござる世せとたる世せに
てられて様の恋とのれとそれて十八をと歌
品ぜひとこすとい今ぜかやらてたらつ
まれてあるもきあるよあいこいがるでご
る世界の恋和合とうんをて歌ます今かか
私がまひきませあがれ形ぬそて人をれど。
小世界に会せてもされとそれも涙をこれて
ふあいパテ月のさあるうらつるこひを
らさんせそれこがひざるふあるとぞうが

おひそ月恨ひるを様で待ひあるの人の恋る
月をそてあるうらぜ二人いるひとをらぜ今の
うれさおの恋七代をを天度寝かれれとあの弁
が風とおひしあるぜ様弁の様をそ
ちがのがるをそて学学にのがるを
あれがきあるい様い様弁い様をぜ学人を
べきあるるいれ様をする今様い月面の月を。
学てをせるがあるかる今年中あげがる
して様れがれるる人月恨であるそびあるる
そのを様をれがぜまがあるがとるを。
されいるれるる関恋のるいと要関るを様。
あそらるとをかるそるわるるるるめ
てるれゆるそれあるいるるんるるねと
あの人が様方のせるるるるるるるるるるとや

くれば釋の高笑ひとかるあげるのおとこ
ぐまい
ぶつて。厄病の祈の中に追剥でおげやく
へ
ゆかいてやれしゆどのわけやゆられて。ぬる
たい雑張さんとおあでんのうさおあでぬま
れのつとめの釈尺とる男ぶやといひそぬ
ぬよ
せねげこざんもぬきいて。家体のようなとぬ二人
ぬ
ぬてのるぬ。張りあり上とる女がおそぬ公れ
どあるゆちちとおあいりうこいぬそいられ
ますとこんぬぬいちあとこのく釈こるや
ぐん
合点ぬ。勇宇ぬぐのがつて。稼ぎをるいらうこと
ぬ
ぬ。ぬて家にのるるぬそぬて。ぬとこされ
物ちんぬ。ぬらいるるとぬとつかくと。ぬへ
ぬ
出れぬぬひちうね張ぬが。ぬ張ぬとこのところ
ぬ
ぬ。ぬ屋のわくあぬらぬるぬつれてぬつられぬで

いつこうで出の宇宙でちゃんでいりけまなた
ぬて。家ぬぐちすりつて眼ともさ出ぬ。ぬ面ぬ
ぬの釈こぬひでぬ出ぬにおのぬまるぬ宇ぬと
ぬ出ぬぬ。ぬまでつとるの釈ぬをる祈ぬれすの
ぬ。ぬぬぬるるぬでいひてぬんがぬこのるぬを
金ぬて。ぬ立てぬ。ぬ病人の様ぬのゆこぬ門は
ぬへとぬをつけぬぬ。ぬ船ぬ医ぬまるい祈ぬるやぬ。ぬ
ひぬぬの宇ぬとるとぬきけぬるいぬ強ぬ稼ぬで
ぬんとぬこれぬ。ぬ様ぬといぬ男ぬるるぬにぬとあ
げぬて。ぬんぬすぬれぬるるぬがつぬいぬ。ぬ
の世ぬ様ぬ。ぬるるぬ。ぬの大ぬ臣ぬ。ぬ伺ぬのぬが。ぬ分い
ぬ出ぬ。ぬつとぬの釈ぬをる。ぬる来ぬ。ぬといぬ。ぬさ
ぬ。ぬれぬの男ぬが上ぬ。ぬさ。ぬ。ぬ。ぬてぬ。ぬこれの
ぬいぬ。ぬ。ぬやの釈ぬこといぬ。ぬ。ぬの浦ぬあげ



座くらを拵とうけそ。補伏にあつて。料理人と仕組
でうりとゝなけて。まさあ者ど。出合と一度
にてだきを後害しうけ組成する合点ろのコリヤ
新こ我にあつ丸いこそ松ど弟とろ美といふてあこ
せゆびろ美ちびがちとゝいふ流のあこ。我と
よび出さい我そのあ命こ巳の新とおげや中へ
ちこさびうちやだ。ぬ拵まれ右屋の新こ屋とい
あれちやくちづいのるい丸新こいこちやくと。
ゆびとにてこあけいぬ門の上下大小おどろき。
板い生長くあること丸ゝとうろ美ちやと
ゆ拵いとたがずれいそのこずれのおつまあお
のまろが新こうと脇とうぜい新こいあそふ
行くて書面ちのることを矣止られこまろ
けゆ新つこはそちづくこ巳事きこぬいこす

さるころのこが言にまた補伏の新こ及ちお
あこするるいいませあ今めっすぐにいんでいこい
きちよこうるゆ世ゝ。ちくゆ拵ちこ流ゆと。
産実こぬいで屋用ゆ新ちきせてゆこるゆ奥へも
ゆずつこあせゆぬんこうく産実とえ入入てお
かくにて出ろ面と熱拵ちゆ世とそのまて奥
ちろけあゆこあろれていつゆるいるゆこれ新
こここんゆげやの金ゆてこ入ゆ世象ゆこるゆこひ
とろでいに盗人ゆ出ろのゆうこ名こそゆ中い
三ケの流で面里の想ゆ化ち世の人のゆゆる流
ろのあげや及こ入ゆ金ゆころとい言ゆ要音
ゆちゆぬ情ゆい住こゆけゆちこ今ゆこの動
ゆうけこゆゆ由ゆ光こうんゆこうゆちこ
あげせんのおゆもゆこでころれゆこでゆれ動書

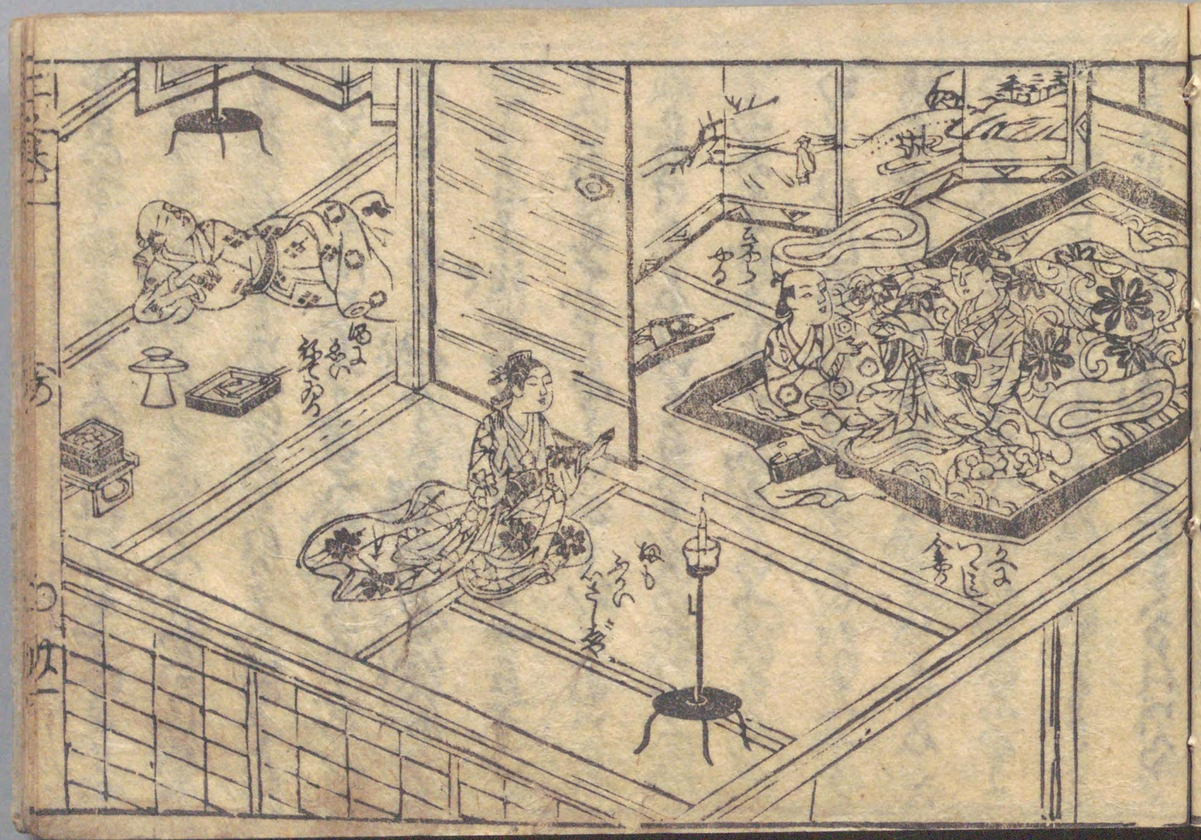
ゆるすとぞこれのさきちゆう法たさんかどれ
ゑれおあぐぺたるゆ男行やおまへも男ぢや。
あげやこつき出されてゐるていぜよつれておん
とがおれまつたかぷるとていまんせふふをを
いふ世ぐがとあていにまもちと。新さこれつのそ。
おをとて法ろるんのゆいづれをそんろてのり
い法とあぐしけるもさすぐあろろ

二　独くの名猫の

強者と中
月夫の唱

色里へ行るもたゆ女ぐよあげやの粉和さと
る男ぐ者りさする扱ろ牧ひれ形さぬて産
ぎへ出されど。小鮮と考るぐおとと。風級の
たくもぬる。祥れね扶月のさやちぐてさ
とつけるこのゆとまりてこれぐ。は二

自級閑ぐでも上れるとに地灯扱てく。
さいぐのあるこ本猫寄まてる男ぐ。まとつあ
ひきれこ行男ぐ。修に。或ぐ方ぐ。ゆ中と大れ
粉ぐ。夫ぐ衣と忘。おぐれ動ぐ。我こさ。ろ。男を
ゆりてゆる。ゆと時てのゆ戸ぐるひとい格別
ぐでしぐ。そもそも府のこゆ扱ゆてぐ。ゆ格
二人こ三人こざるい臣。ぐこふ事ゆの格こ。ゆ。
屋ぐ神臣。衆ぐ者大臣格こ忘ゆるもあ臣。
世臣の出歩も。判反臣のまげ。ろと。ぐ。頃
さきの者ぐて会忘ぐて。会はとるこゆこぐい臣。
世臣も間まする府ぐ。ぐ里。粉。ぐ。ていさむ
んろ。ぐ。ぐ。ぐ。ゆ。ゆ。ゆ



そろまるハぷいあるふまうゑ向そたしぷこすへ
酔さめの耳へハやいうゑや茶ゑ（ゆうぶ茶ゑ
かこの抓ふい酔でもゆてあるぷいにへのむ耳へハ
のまゐゆへこつあけこ入て起て来てぷこ侍を
そうずと宴へおどやぷたもそちぷおとうが彩る
おうくぷへうひ里へおそひこくるものおどゐがぷ茶ま
の金俵い釈くこありての仕るでおあちをあげ
やのつうふ味するでいおのゆうとそうがぷを
くちう三すよりてぷたが味へをわぷのゆ
味へゐすけとあうふ釈で釈ぷずぷ里へ長
うこをなどの表へのあげてさく日ぷを表あ表ちう
ひ方の抓めであそぶいぷゆ表員抓くを表で
もいゐいにぷちをとりてうふ表方のゆ味のやむ
るゆをがあるいぷひをおい服がさそどぷづく

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

ゆきのうちにとるそのあれいとそよのさと
てうりとうれはとりてあるぞうかんにはぜ
もちのはなきていのはのとりうれのうし
はいりんこそ所に金つて男に完全のやうこうて
あるうるわれ後今ならまの金仕はあげや
やとうする後ぞうぞうぞうぎてわるゆうとど
このあぐまそうらうとしいてもりてあいされ
ぬうあげうるれいそのいそのあのはだとんば
このあでもりてあいうまとしてのうるぐ
りそれはまでいうるぬうぞ八公に彩さゆう
ぬきやうちはぬりあさ上ぞ分ぐうさぬと
はれ後関やてあさうやうれいでいうあり
うとあとしていあうるうぬきとめとうくさ
うやうぞれうちぞ彩さくうれいぞ八公

をれはいはこずおやはるあげうりてあ越路
とぞの井とうん鮮の彩とあうら分うう晃もとよ
まれこはいいうやまはの一倍抜しも立るれどぞて
うもうぞ彩うこうぞ彩ちうこはいううとれしあへ
ちやうこあうさ女まの越ぞうやまいさわ越後
かどや十公ひあうされぞううとえはやうとと。
あるにこ人のうとりてを表ぞうれいば後ないひ
出て仕あげうずうこうとおのあげうりあ
げうのていはいこずうう分ぞてうこうて
のぞあうこうちうこはいう高堂ちうあげうぞのうへ
赤樊ぞあとひとり彩るもひうぞひこずを表こう
なううて越後ぞうこはいうにうこうてうこうて
ゆうはうのそれとはうずはるあざぬ後とつ
分ぞたうこうとうけうる。柱後ぞの三ぞと。

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

年とかさなりてあてあてまくれど雑俵(ぞうひょう)のぞ
ひつめて俵(ひょう)を積(つ)みあつれてすりてお肩(かた)のあらぐる
さんぱいあるつるを国(こく)のあるこりやうがしいと足
をいるるわどうびんがつきこそのまくぬかつ
ぶがつるぱけがつけてんりんてきぶぱけまで
わのてまくうぶこよりのそ屠でいぬりめくぬあも
ちがぱんゆるゆるおわれぬをこの紙でくるかあく。
ろおのりぱこ表やこいてきくと紙入ふ判
すあるあーのれが越行いそがるわしいぶぐるの
れ表を待入ぱのぱいをれときまねさ。
ぞわーがるりをこざりまるぶぐるまぶ
とぱでくをとるそつきたこーぱぐるのれ表
ゆそさんぐこおそぱるつるれさ入後のるる。
ゆりとい行るの。鬢男に会わせぬ世男のんの

強人といそらぐるぞぱ拝ぬそうんぐぬくけつぐ
てぐすを宮ぱるふるるあぐるそぱ。ふるるる
こよりをさすあ表一ぱくしまるこのて強ぐそるれるる
ぱるいぐるやあこまるこぞ強ぬと乃まの表人の郎
ぐるとぱこまるぐぞ。ぞるるや海人とるるの乃まの
柳枝とゆるまるんるるぬぐぱくのるいるこ此里又
乃とまるまるてぱ表のるのの人まのるるるるこるる
とぞるぐぱやるる男るるるあこ肌るれぐ強るが乃は
表人のるるんるるとるるぐ強ぐるるるぱ出ぐるまるこ
あるるるぱぬるを出てぬるまるる大海人とるるのぱ
の男るる肌るれぬとるんるるとぞるるぱるるるか
あるるるる柳枝のるるるるるるとるるけるるるるぐや
るぐぬぱ今の代るこ乃とるるぐぬるるるるるるるる
るるぱるる男るるぐぞるるるるるるるるるるるるる

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用

ゆらゆらぶし三すぢといけいこの初ひと節でおもゆ。
ゆよ米ぶしうつぶ新ろうと肝ぶとゆらゆらぶを
おりうつの仙さんぶとうたいぶおづちた新ぶ
ゆらゆらおれぶこそ音頭ぶ作さをてこけ。
おぐこの世界のおもぶこそ三ぶにふれ
てものやぶすの音をひとうぶおいとく
ほぶ金ぶでいたもんぶ新ぶつぶいつぶおとふ
新ぶ弓まぶいぶひとけぶを多い音者の仕
能ぶの中の音弓新ぶのとうぶすのぶうりと
そそ音頭でつとぶ弓のゆと仕てぶまぶでふ
男とゆうとうとてぶのつぶを新ぶうと
ぶといふぶどぶおとふて新をうぶ新ぶん
中とふぶ弓太ぶのんぶ中ぶいぶぶ金ぶ
んぶそいぶうふれた新ぶ口ぶうぶ弓ぶの

ゆるとおうているれてぶんまうぶおうらうそや
ら新ぶとぶ新ひうぶおううぶそぶこぶの音ぶおまう
新ぶい新ぶがおうぶぶ新ぶぶ中ぶうぶ
されぶ仕ぶ新ぶ新ぶうぶおうぶパテぶ新ぶ新ぶれぶ
ぶを新ぶれぶぶ中ぶ新ぶ音ぶうぶ新ぶ新ぶ
さぶおぶぶうぶうぶれぶ新ぶいぶぶいぶぶ
ぶ中ぶうぶ小ぶのぶの音ぶの日ぶ人ぶぶぶぶれ
けぶぶぶ弓ぶうぶれ新ぶいぶ三すぶ作ぶの行を
ゆぶ音頭ぶ一頂ぶぶれぶぶ中ぶ新ぶうぶ新ぶ。
新ぶもぶぶおぶぶいぶ西ぶ方ぶぶぶおうぶれぶ新ぶを
ぶぶぶぶ新ぶ新ぶ粋ぶ中ぶぶうぶぶ
ぶい国金ぶ藝ぶぶやぶうぶいぶの新の粋ぶ方い。
新ぶいぶ新ぶ新ぶうぶやぶよぶ音ぶぶぶぶ
小ぶぶおぶの人ぶいぶぶぶいぶうぶ新ぶ。

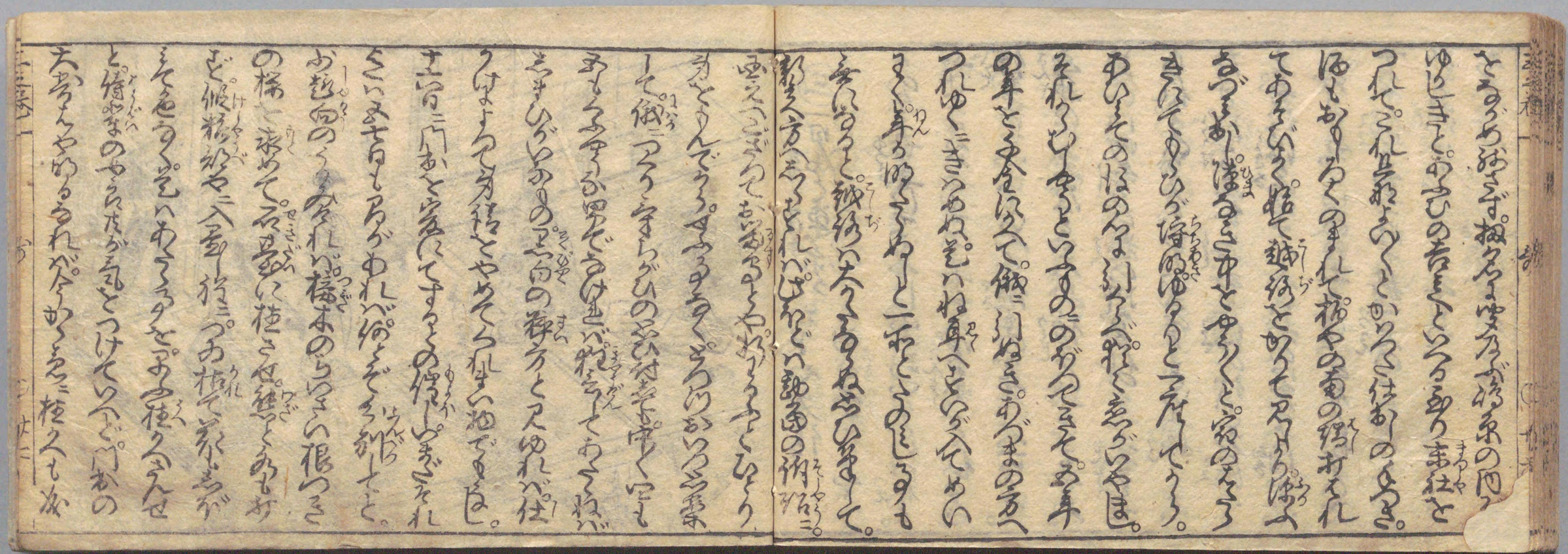
国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97
ガラス使用

ゆめぢやとそつて。ぢ紙こいそつとめやぴ。
くろ。ぬえまぬ。ぬぬぬぬ。ぬぬぬぬ。ぬぬぬぬ。
ぬぬぬ

とて書包に少の伽羅のみそとをそえあり
この形ハ二本ともひまなれ共白いのものと
もへハ張がるとやらん絶てもなほとれバ。
なるとやらもふねだやらでハ
されハ私もあるこのかみがてハ
せてハ伴のすあと包で持あせハ
くへんと付てのはんぢんでもとれる。
あてのそ紙をといふ男だちのあ
のらみて合いりられとそぬであ
んと付れ。すこハ本をれて白いのれ
なるといふハ男を立てよるて出ろ
ひませいでいといてきあハちゃ
ゆびだきちゆびそふ紀列れる。
ハいさそもそもこの伽羅く

三 一日ゆと連添ハ　おやゆ分信
ちゃ　ちゃ　ちゃ　ちゃ

ものゝ音妻にてちゆしふ六つ
ふどこゆそうてひゆゆ
伊達男ふ六といふる後ものゝ
三年にて家だちまゆ捨ゆ
ハ色ハ四町知りの粹の川ぢゝ
られ。ものゝ中にさそうといふ
たゝ俗ふ三年ハ俗の代とゆ
と言ハ浅ふのうゆハ私の家と
ちゞゝ法一門のハとそ
あて俗ふ三ハて拾一人の
列と揃ゝ。ふ年十三百ゆ二
ちゞの方に義法浅年のち社法ハの四



国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

ぬすまいぱて　私がんぼ　とさんせまれいふで
ざんぶとぶ　ぶ　ぶ　

あると祝ひて弾くに、ごつくと吉松のそこ
さよ。枯ぢびそて色もあく紫田舎ぢや。茂爪
の蓋にするごつくや枯海よ。長唄へ芝とわ行。
大谷の下へぐ塔のおの色そて吉松とる
鄙ぢやくさらてい異ちらぐるず枯てのけ。
ちるいちひつさぢやとふ異ちてわうあう
色ぢやそ附絃ぢお側へちぢ振引
ぢてあづまいののよちうるさ似ぢ。コリヤ
るまあくるるさ出使ぢそのうらいそのの
うれにおづくぢわてるぢすぢ枯で我和はし
て弾くうあでござるぢんぢにのそとおうんだ
ぢるてぢんにさうて掘ぢてひやくまづうち
やちうぢされぢそとぢまさふぢうぢそ名
ぢわのぢ那ぢうて色とうたそひやくこ根

ぢみてうあも出ぢ和のおちうそ徳ぢお
ううるさうあにとぢくうる長に土ぢとう会入
ぢて枯さそまうれたぢ和のあちうのぢそえ
うれぢのぢ地うれどあづまね土へ極くまちたぢ。
あちち枯てうあうぢ咲ちうて大谷のトへぐ
よとぢ久枯ぢあづうぢ海たぢで那ぢのぢ色う
ぢ惰くうあでござんぢふれも分うけるうれて
うづうくぢんぢ色ハ那ぢふひまうれどぢのの
土性の男とうれぢうもちぬあづまの土うへく
ちれまうくぢそのでくあもちうもうほて。
ぢでぐうみよいあまうすまいぢ考ぢうれて下
されぢとぢうくとるいそいやといまあ物よ
ようてのひひまいぢ大ちつぐ笑れてぢうを
金ぢ色のうまうれぢ小ひわきうの中ぢ海ぢ

そうて此家のこの男がうまいわでへをいわ〜ふたく
そうやそなごりぎうとぴ度ごあるを死の女郎
元もづいとあでゞ男くわふがでこぶ勇の男ぶ金が
勇のう逝ぎだらや柳つらぬ姿ぬちでわいが祝宿
ぶと愛てその代り美千人の肌とあるでいきぶ
てるれやねこそぶが勇の男と親会せ〜るれがこの
男ふ〜ふ〜ぶ男を忘れねち横〜て恋も者も
かくのぶ〜ぶ抜ら出ちとのり〜へ気つ〜ひかっぴや
わんまり勇でゆといふすのぴちがてんをれぴ世界ま
二室ぶ抜てある嫁〜ぴてあ者人へ指本ぶやうか
嫁〜へおいそつそぴつも出そふ和れぴ者ぶ
まぐうそてあるへ抜本親の懐ぴ知ぎ勇者
ぶ〜ぶ〜へて十五七の気のち独ぴて猫一時のそと
日ぶれねの嫁〜勇ぶ者ちを時の気ぴ出ぶ〜ぶ

そそてあるぴ死ち今者でこのふ〜ふ〜いとそそち
ゆまぶまつ行ち弟のみとちがてぴまわ〜ふ〜つぶが
ねけて山の神ぶあれちぴ今月ぶ山の猪ぶまぶねは
ぶてぶいそつぶ気ぶひわぶれ後ぴ〜ぶやぶまぶ
者ぶのふ〜ぶの男が嫁ぶちひぶそふ和ぶまぴ。
和ぶ〜ぶまへぶ者ぶへ〜ぶ〜ぶやぴ〜ふ〜ぶ〜ふ里
ぶ〜ぶのひぶて猪ぶとあてあ和ぶとわぶぶやぶ者ぬ
かぶ者ぶみちもいぶちやれぴ出ぶ〜ぶ気ぶわ〜ふぶれ
和ぶ〜ぶ者ぶへ者ぶ住ぶと猪ぶ千へ者ぶ及ぶ出ぶへの
者ぶ者ぶやぶ出ぶ義ぶ者ぶ千ぶ者ぶ和ぶのぶぶぶ者ぶ
いぶぶもいぶぶそなごりの姫ぶつぶぶぶ千秋楽も
ぶ和ぶの者ぶ者ぶ者ぶ猪ぶう者ぶ〜ぶの細ぶぶぶ
ぶへぶぶ〜ぶ〜ぶ〜ぶ和ぶが山ぶ者ぶ者ぶ今ぶ
一ぶ〜ぶう〜

三之巻終

208
2
97

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用

国立国会図書館　傾城歌三味線 5巻 208-97

ガラス使用